



地域医療実習報告書

はじめに 2

令和4年度 春季地域医療実習 (地域医療体験実習Ⅰ)

- ・ 概要 3
- ・ 募集要項 4
- ・ 実習実績報告
 - 松江 8
 - 雲南一雲南市立病院 11
 - 雲南一飯南病院 14
 - 雲南一町立奥出雲病院 16
 - 出雲 19
 - 県央 21
 - 浜田 24
 - 益田 27
 - 隠岐一島後 31
 - 隠岐一島前 35
- ・ 意見交換会 38

令和5年度 夏季地域医療実習 (地域医療体験実習Ⅰ)

- ・ 概要 39
- ・ 募集要項 40
- ・ 実習実績報告
 - 松江 44
 - 雲南一雲南市立病院 46
 - 雲南一飯南病院 49
 - 雲南一町立奥出雲病院 51
 - 出雲 54
 - 県央一大田 56
 - 県央一邑智 59
 - 浜田 62
 - 益田 65
 - 隠岐一島後 67
 - 隠岐一島前 70
- ・ 意見交換会 73

フレキシブル実習 (地域医療体験実習Ⅱ)

- ・ 概要 74
- ・ 実習レポート 75
- ・ フレキシブル実習意見交換会 77

おわりに 78

はじめに

令和4年度春季地域医療実習・令和5年度夏季地域医療実習・フレキシブル実習が、保健所及び地域医療機関や地域住民の皆様のご協力をもって実施することが出来ました。

日本では大型連休が明けた令和5年5月8日に、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行しました。これに伴い、日本もようやく「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」に転換して、少しずつ普段の生活が戻ってきている感があります。そうした中、各保健所に企画していただいた計画に基づき、特色ある地域医療を体験することができました。またフレキシブル実習では、学生自らが実習の計画を立て、それぞれのニーズに合った実習を行うことができました。

報告会では、実習先の違う5～6名が1組になって「実習で一番印象に残った体験」「島根の地域医療のよいところ」「島根の地域医療の課題と改善策」についてオンライン会議で話し合いました。島根の地域医療について、学生たちがお互いの学びを共有し、深く話し合う様子を見ることができました。また学生同士の交流を深めることもできました。

これからも地域医療実習がより実り豊かなものになるよう、工夫を凝らした支援をしていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、地域医療実習に多大なご協力をいただきました各保健所、市町村、医療関係者の皆様、地域住民の皆様に心よりお礼申し上げます。

島根大学医学部
地域医療支援学講座
教授 佐野 千晶

令和4年度春季地域医療実習 (地域医療体験実習Ⅰ)概要

実習目標

医学科の学生が、地域医療拠点病院・へき地診療所等の活動や地域との連携を実地で体験・学習することにより、地域医療や公衆衛生業務に対する理解を深めることを目的に、島根大学が島根県からの委託を受けて実施します。

実施時期

令和5年3月13日(月)～16日(木)(地域により異なる)

対象

島根県の地域医療に対する興味関心やボランティア精神を有し、「緊急事態宣言」また「まん延防止等重点措置区域」及び住民に対して不要不急の外出自粛を要請している地域以外に在住する医学生

実習地区

松江・雲南(雲南市立病院、飯南病院、町立奥出雲病院)・出雲・県央・浜田・益田・隠岐(島後、島前)

参加者

合計22名
(地域別内訳) 松江 2名、雲南 5名、出雲 2名、県央 2名、浜田 3名、益田 3名、隠岐 5名
(学年別内訳) 1年生 12名、2年生 4名、3年生 5名、4年生 1名
(大学別内訳) 島根大学 21名、千葉大学 1名

実習中の課題

- ・実習前に計画書を作成し、各々の目標を定める。
- ・実習中は毎日Day Sheetを記入し、実習で学んだことを書き留める。
- ・実習の最後に保健所にて、意見交換会を行う。
- ・実習参加者全員で、
①実習で一番印象に残った体験 ②島根の地域医療の良いところや課題 ③島根の地域医療の改善策について意見交換を行い、県や保健所担当からアドバイスも受ける。
- ・各自報告書を作成する。

指導教員

島根大学医学部

地域医療支援学講座 教授	佐野千晶	地域医療支援学講座 助教	布野慶人
地域医療支援学講座 助教	堀田優希江	地域医療支援学講座 特任助教	宅野真由美

令和4年度春季地域医療実習 募集要項

地域医療を体験してみませんか

～ 春季地域医療実習の参加者を募集します ～

島根県の中山間地や離島等、過疎地域においては、医師の不足をはじめ、医療の確保が深刻な問題となっています。

島根大学は、本学のみならず全国の医学生みなさんに島根の地域医療に対する理解を深めていただくため、中山間地や離島の医療機関等での医療実習を、島根県と共に実施します。

対象

島根県の地域医療に対する興味関心やボランティア精神を有し、「緊急事態宣言」また「まん延防止等重点措置区域」及び住民に対して不要不急の外出自粛を要請している地域以外に在住する医学生

費用

島根大学医学部（出雲市塩冶町89-1）より各実施地区までの旅費（宿泊費等含む）、および実習期間中の傷害保険・損害保険にかかわる費用については、島根大学が負担します。なお、旅費は、実習終了後の口座振込としますので、実習期間中は一旦自己負担してください。

県内の7圏域で実施します。

実施機関	実施地区等		日程	募集定員
松江保健所	松江		3月13日(月)・14日(火)・16日(木)	2名
雲南保健所	雲南	雲南市立病院	3月13日(月)～15日(水)	2名
		飯南病院	3月13日(月)～15日(水)	1名
		町立奥出雲病院	3月13日(月)～15日(水)	2名
出雲保健所	出雲		3月13日(月)～15日(水)	2名
県央保健所	県央		3月13日(月)～14日(火)	2名
浜田保健所	浜田		3月13日(月)～15日(水)	3名
益田保健所	益田		3月13日(月)～15日(水)	3名
隠岐保健所	隠岐	島後地区	3月13日(月)～16日(木)	3名
		島前地区	3月13日(月)～16日(木)	2名
計				22名

意見交換会

3月17日(金)午後、本学および島根県の関係者との意見交換会をオンラインで開催します。実習参加者は、原則として全員参加してください。

応募方法

島根大学医学部ホームページに掲載の申し込みフォームに必要事項を入力してください。〆切は1月23日(月)です。(アドレス等詳細後述)

～ 地域別実習内容 ～

実習期間中のスケジュール、必要経費等、各実施機関が作成した実習計画の詳細は、島根大学医学部ホームページ(アドレス後述)に掲載しています。

松江地区

【日 程】 令和5年3月13日(月)・14日(火)・16日(木)

【募集人数】 2名

【実施機関】 松江市・島根県共同設置松江保健所

【実習協力機関】 松江市国民健康保険来待診療所、安来市立病院

【実習のセールスポイント】

●松江市民国民健康保険来待診療所

健康増進を目的とした複合施設の中にあり、地域に密着した医療、中山間地における診療所の役割や現状を学ぶことができます。

●安来市立病院

安来市の救急医療の中心的役割を担うと共に、無医地区への巡回診療を実施されています。また、地域医療拠点病院として各機関との連携を図ると共に、在宅医療にも積極的に取り組まれており、中山間地に位置する病院の役割や現状を学ぶことができます。

雲南地区

【日 程】 令和5年3月13日(月)～15日(水)

【募集人数】 雲南市立病院 2名、飯南病院 1名、町立奥出雲病院 2名

【実施機関】 島根県雲南保健所

【実習協力機関】 雲南市立病院、飯南病院、町立奥出雲病院

【実習のセールスポイント】

●雲南市立病院

実習を通じて、地域の中核病院としての役割や地域医療の現状を学ぶことができます。

また、総合医育成に力を入れており、「病気だけでなく暮らしを見ることのできる医師」を育てる取り組みを行い、地域から愛される医師を育てていきます。幅広い活動内容とスタッフの熱い思いに是非触れてみてください。(新型コロナウイルス感染症が流行中で、十分な実習が提供できるか分かりませんが何か感じ取ってもらえると思います)

●飯南病院

『総合医』と『プライマリケア』をキーワードに、地域で活用してもらえる病院を目指しています。

医師は、住民の日常を支える『かかりつけ医』の役割と、二次医療を守る『総合医』の役割を併せ持つ視点での診療が求められます。地域のニーズと特性を総合的に考えながらバランスを保っていく、そんなフィールドを目指し成長したいと考えています。

保健・医療・介護・福祉の連携による『飯南町版地域包括医療・ケア』を体験して下さい。

●町立奥出雲病院

町立奥出雲病院は中山間地において、入院・外来医療を提供しています。令和2年11月より、院内に「介護医療院」を開設し、要介護者への対応も始まりました。さらに、今後増加する在宅療養ニーズに対応するため、「在宅診療センター」として訪問事業(訪問診療・看護・リハ・栄養指導)を実施し、地域の医院や事業所と連携しながら在宅医療に熱心に取り組んでいます。

出雲地区

【日 程】 令和5年3月13日(月)～15日(水)

【募集人数】 2名

【実施機関】 島根県出雲保健所

【実習協力機関】 出雲市立乙立里家診療所、島根県立こころの医療センター、医療法人 江口内科医院、
医療法人つたや会 在宅診療所いずも、社会福祉法人 ふぁっと、
クレド訪問看護リハビリステーション、Grow訪問看護ステーション

【実習のセールスポイント】

公立診療所である乙立里家診療所の外来診療を見学し、訪問診療や訪問看護では実際に患者宅まで同行するなど、最前線の地域医療に触れることができます。またこころの医療センターでは県全域を視野にした精神医療を学ぶことができます。社会福祉法人ふぁっとでは、障がい者の自立した生活に向けた支援の取り組みを知ることができます。保健医療福祉分野の現場を幅広く経験することで、地域医療のイメージを培うことができます。

県央地区

【日 程】 令和5年3月13日(月)～14日(火)

【募集人数】 2名

【実施機関】 島根県県央保健所

【実習協力機関】 公立邑智病院、加藤病院

【実習のセールスポイント】

県央地区の実習では、邑智郡での病院実習をとおして中山間地域の医療の実態について深く学ぶことができます。

ぜひ、県央地区での病院実習をとおして充実した2日間を過ごしてください。

浜田地区

【日 程】 令和5年3月13日(月)～15日(水)

【募集人数】 3名

【実施機関】 島根県浜田保健所

【実習協力機関】 独立行政法人国立病院機構浜田医療センター、島根県済生会江津総合病院、
西部島根医療福祉センター、浜田市国民健康保険診療所(波佐診療所、弥栄診療所、
あさひ診療所)

【実習のセールスポイント】

急性期医療、福祉と連携した医療、地域に密着した医療の現場を体験し、現場の医療職との意見交換を行うことにより、浜田圏域における各機関の取り組み、役割、医療連携について理解を深めていただくプログラムです。

益田地区

【日 程】 令和5年3月13日(月)～15日(水)

【募集人数】 3名

【実施機関】 島根県益田保健所

【実習協力機関】 益田赤十字病院、益田地域医療センター医師会病院、松ヶ丘病院

【実習のセールスポイント】

益田圏域内の様々な機能の病院における実習をとおし、地域医療の役割・課題等について理解を深めてもらえるようなプログラムを準備しています。地域医療の最前線で活躍しておられる医師やスタッフの姿、多職種・多機関連携の様子にぜひ触れてください。救急外来実習、巡回診療への同行等も予定しています。

隠岐地区

●島後地区

【日 程】 令和5年3月13日(月)～16日(木)

【募集人数】 3名

【実施機関】 島根県隠岐保健所

【実習協力機関】 隠岐広域連合立隠岐病院、隠岐の島町国民健康保険 五箇診療所、
隠岐の島町布施へき地診療所、高梨医院、隠岐の島町地域包括支援センター

【実習のセールスポイント】

地域医療の中核としての役割を担う隠岐病院や町立診療所、開業医の現場を実際に見ていただき、離島における医療の現状、また総合診療の在り方について体感してみてください。さらに、限られた人数で医療を支えている仕組みについても学んでみませんか。

また、保健所や地域包括支援センターの役割を知っていただくことにより、行政と住民との関わり方、及び行政と医療機関の連携についても理解を深めていただければと思います。

隠岐地域での医療実習へのご参加をお待ちしております。

●島前地区

【日 程】 令和5年3月13日(月)～16日(木)

【募集人数】 2名

【実施機関】 島根県隠岐保健所

【実習協力機関】 隠岐広域連合立隠岐島前病院、西ノ島町地域包括支援センター

【実習のセールスポイント】

地域医療の中核としての役割を担う隠岐島前病院の現場を実際に見ていただき、離島における医療の現状、また総合診療の在り方について体感してみてください。さらに、限られた人数で医療を支えている仕組みについても学んでみませんか。

また、保健所や地域包括支援センターの役割を知っていただくことにより、行政と住民との関わり方、及び行政と医療機関の連携についても理解を深めていただければと思います。

隠岐地域での医療実習へのご参加をお待ちしております。

お問い合わせ・お申込み先

島根大学医学部 学務課 教育改革・教務担当

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL : (0853)20-2085 FAX : (0853)20-2078

URL : <https://www.med.shimane-u.ac.jp/zaigakusei/sscmt/index.html>

島根大学医学部ホームページ(上記URL)に

募集要項・参加申込方法等を掲載していますので、ご参照ください。

松江地区

【令和4年度春季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 松江市・島根県共同設置松江保健所
- 2 実施年月日 令和5年3月13日(月)・14日(火)・16日(木)
- 3 実習協力機関 松江市国民健康保険来待診療所、安来市立病院
- 4 宿泊場所 自宅
- 5 参加人数 2名
- 6 実習内容 松江圏域における地域医療について

3月13日(月)		3月14日(火)		3月16日(木)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
9:20	松江保健所集合 オリエンテーション	9:00	来待診療所集合 午前(外来診療)	8:40	松江保健所集合 移動
9:30	保健所長講話			9:30	安来市立病院
10:30	移動				午前(オリエンテーション、 外来実習)
11:00	来待診療所 午前(外来診療) 昼食 午後(訪問診療)		昼食 午後(訪問診療)		昼食 午後(訪問診療)
17:00	(初日終了)現地解散	17:00	(2日目終了)現地解散	16:00	終了 移動
				16:45	松江保健所 帰着 (グループワーク、実習のま とめ)
				17:30	実習終了

●今回の実習で得たこと、学んだこと

地域医療とは実際にどういうものなのか自分で考えて自分なりの答えを見つけることができた。私自身地域医療における地域とはどの範囲なのかという課題を待って実習に臨みましたが、松江地区の中でも診療所によって、医療のあり方は様々で、決められた地域の範囲なんてものではなく、自分自身が将来医師になって、関わっているところまでが地域だと思えることができました。

また、多職種連携でよくでてくる職種の方について学ぶ機会が多かったが地域の医師になって関わる人々は実際にもっと多いことを知りました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

患者さんや職員の皆さんに教えてもらったりつれて行ってもらった地域の色々なことについて知ることで、また別の患者さんとの話が広がり多くの話ができるので、これからは自分で島根の色々な場所に行ってみて、その場所についての歴史をもっと知ろうと思いました。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

○疑問点を自分で見つけ出し、実習を通して答えを見つけることができた。

○座学で学ぶだけでは地域医療を学ぶことができないとわかった。

○患者さんと話しているうちに松江の知識が増えて、より患者さんと話せるようになることがわかった。

●お世話になった方へのメッセージ

皆さんお忙しいところ、地域の医療や施設の案内、病気についてだけでなく、初めて来た場所については、地域の特産物などの説明もしてくださったり、実習での地域医療について学べるだけでなく、松江地区の楽しみ方までも教えてくださり本当に楽しく充実した実習ををさせていただき、本当にありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

島根県の地域医療の良さとして、高齢者の医療サービスへのアクセスの良さを感じた。理由は、来待診療所や安来市立病院では病院に来ることが難しい高齢の患者さんや無医地区に対して頻繁に訪問診療や巡回診療が行われていたからである。島根県は、厚生労働省の調査による都道府県別10万人あたりの100歳以上高齢者数が日本一で142.4人(2022年)と圧倒的に多い。この記録は2022年時点で10年連続日本一である。実習でお会いした患者さんも80代後半の方が多く、65歳定年から100歳まで医療サービスなしに生活することは難しいと感じたが、その生活を支える地域医療システムが構築されスムーズに運営されていると感じた。また、多事例に柔軟に対応できる診療領域の広い医師の必要性を感じた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

島根県の高齢者の医療サービスへのアクセスの良さと都道府県別10万人あたりの100歳以上高齢者数が日本一であることの因果関係を調べた研究やデータをこの実習中に見つけ出すことはできなかった。しかし、島根県が10年連続でこの記録を樹立していることに、島根県の地域医療が大きく貢献しているのではないかと感じた。この記録は島根にご長寿の方が多くを示すと同時に母数である島根県の総人口や100歳以下人口の減少(若年層の移転など)が寄与している可能性もあると考えられる。そこで、何かしらの方法でこの因果関係を詳しく調査し良い点があれば、島根県の地域医療と100歳人口の関係性をモデル化し、他のエリアに発信していくことで超高齢社会の日本の中で他地域の良い先例になる可能性があるのではないかと感じた。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 臨床現場で授業内容がリンクする場面が何度もあった為、大学の勉強をもっと復習しようと気づいた。
- 医師としてのキャリアの積み方を先輩医師に教えて頂き将来を見据えた情報収集を始めた。
- 高齢者医療では、医学だけでなく福祉・介護の知識が必要であり、勉強の必要性を感じた。

●お世話になった方へのメッセージ

この度は本実習を実施頂き有難うございました。地域医療を支える医師には医学知識だけでなく保険制度や福祉・介護の知識が必要なことに気づきました。先輩医師にお話を伺い自分の将来の働き方を考える良いきっかけとなりました。サポート頂きました来待診療所/安来市立病院/松江保健所/大学の皆様そして全ての患者さんに心より御礼申し上げます。

雲南地区 (雲南市立病院)

【令和4年度春季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県雲南保健所
- 2 実施年月日 令和5年3月13日(月)～15日(水)
- 3 実習協力機関 雲南市立病院
- 4 宿泊場所 雲南市立病院医師住宅
- 5 参加人数 2名
- 6 実習内容 雲南地域における地域医療について

3月13日(月)		3月14日(火)		3月15日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
10:00	【雲南保健所】 オリエンテーション 管内の概要説明	8:00	【雲南市立病院】 地域ケア科カンファレンス	8:00	【雲南市立病院】 地域ケア科カンファレンス
11:10	質疑、感想	9:00	病棟回診	9:00	病棟回診
11:15	昼食、休憩 ※保健所付近で購入		外科・内科外来見学		訪問診療
12:15	【病院へ移動】	12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	【雲南市立病院】 オリエンテーション 病棟実習 地域ケア科カンファレンス	13:00	救急外来 入院患者回診 地域ケア科カンファレンス 振り返り	13:00	訪問診療 救急外来
17:00	終了	17:00	終了	15:00	専攻医との意見交換 振り返り
				16:30	終了

●今回の実習で得たこと、学んだこと

・雲南市立病院は急性期から慢性期まで幅広く入院患者に対応している。その背景として、総合診療医が深くかかわっており、雲南市立病院は島根県の中で今まで一番総合診療医を育ててきたという実績がある。

・外来に来られた患者さんが「ここまでよくなったのは先生のおかげ。先生ありがとう。」と言っておられる場面がとても印象的で、ちょっと前まで苦しんでいた患者さんがこのように口にする姿こそ医師がやりがいを感じる瞬間なのだと実感した。

・カルテの書き方として、SOAPを意識するとよい。

・訪問医療は家族の支えなしには成り立たない。

・在宅医療では、患者さんを支える家族にかかる負担もとても大きくなり、医師は「疲れはでてないですか？」と家族の体調にも気を配っていた。

・外来時などで、医師と患者さんの何気ない会話などからも患者さんの日々の様子をつかむことができ、医療に関する話だけでなく、日常生活の面もとても大事である。

・生活習慣病の患者さんに対しては、改善が見られた点はしっかりと褒めて、もう少し改善が必要な点は言いづらいところもあると思うけど、はっきりと伝えていた。

・総合診療医は、外来の際に自分が診ることのできる部分とできない部分をはっきりとさせ、専門外のところは専門医に紹介状を書いていた。

・カンファレンスの際に、患者さんの状態などを全員で共有して、今後の治療方針などをアドバイスしあっていた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

私は今回の実習では、医師が患者さんにどのように関わるのかを学ぶことを目標としており、実際に3日間を通して学ぶことができたので良かったです。しかし、自分がいざ患者さんの前に立つとどのようにしてよいか分からなくなり行動に移すことはまだできませんでした。今後は、もっと実習などを通して改善していき、4年生になり実習が本格的にスタートする頃には、患者さんの前に立つ者として恥ずかしくない行動をとっていきたいです。また、同じ病院で実習をしていた2年生の先輩を見て、2年生で習うことはこんなにも現場に活かせてくのだと実感したので、4月からの日々の学校での授業を大切にしたいです。そして、また実習に参加する機会があった際には、授業で学んだこととつなげていきたいです。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

○最初は緊張していたが、分からないことも質問できるようになっていった。

○基礎医学をしっかりと大切にしようという気持ちが深まった。

○まわりを見て行動できた。

●お世話になった方へのメッセージ

3日間お世話になり、ありがとうございました。まだ医療に関する知識がほとんどない私にも丁寧に教えてくださり、とても充実した実習となりました。そして、今後の大学生活を何か後押しするものになったように感じています。救急外来や外来などで一つの臓器にこだわらずあらゆる疾患を診ておられた地域ケア科の医師の方々はとてもかっこ良かったです。私はまだ将来どの診療科に行くか決めていませんが、総合診療医も視野に入れています。その際には環境の良い雲南市立病院でまた実習をさせていただきたいなと思っています。よろしく願い致します。

●今回の実習で得たこと、学んだこと

- ・コミュニケーション能力の重要性(患者さんとだけではなく、円滑な情報共有や連携のために、コメディカルやホームヘルパー、訪問看護師などといった方々とのもの)
- ・地域によって、地域住民の方々の医療への距離や印象、ニーズは異なる(雲南では、住民の皆様がとても医療に協力的であった[実習生の受け入れにも?]). また、地域全体の高齢化の進行により、在宅診療の需要が高まっている印象を受けた)。
- ・これからの時代、どの診療科に進もうと総合診療のマインドが必要となる(患者さんを入院させるなら、その退院後まで考えた上でプログラムを組む等)。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

本実習では、雲南地区の特徴やその中核病院である雲南市立病院の役割などについて、見学などを通して実際に学ぶことが出来ました。特に印象的だったのは、患者さんと医療者の距離間です。私の住んでいる地域や以前地域医療実習で訪れた地区とも異なり、非常に新鮮でした。将来、医師として働く際には島根県の様々な医療圏域に行くことが想定されるので、今後実習に向かうときには地域ごとの空気感や医療に寄せる期待を汲み取り意識するように心掛けたいです。また、実際に勤務する際にはそれらを行動に反映させた上で出来る限りの最善の医療を提供できるようにしたいです。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 実習及び学習に取り組む姿勢(先生方の医療に対する熱意を受けて)
- 総合診療医の像への解像度の向上(総合診療医に求められる役割、必要とされる能力など)
- 患者さん側の視点(医療者への期待、適切な態度など)

●お世話になった方へのメッセージ

コロナ対策もあり非常にお忙しい中、このような学習の機会を設けてくださりありがとうございました。この3日間の実習を通して、雲南地区での地域医療についての学びや地域医療への魅力がとても深まりました。また機会がございましたら、更に研鑽を積んだうえでもう一度学びに行きたいです。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

雲南地区 (飯南病院)

【令和4年度春季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県雲南保健所
- 2 実施年月日 令和5年3月13日(月)～15日(水)
- 3 実習協力機関 飯南町立飯南病院
- 4 宿泊場所 琴引ビレッジ山荘
- 5 参加人数 1名
- 6 実習内容 雲南地域における地域医療について

3月13日(月)		3月14日(火)		3月15日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
10:00	【雲南保健所】 ・オリエンテーション ・管内の概要説明 ・保健所の危機管理	8:00	【飯南病院】 ・朝礼カンファレンス 【地域】 ・認知症サロン	8:00	【飯南病院】 ・外来(初診)
11:10 11:15	・質疑応答 ・昼食、休憩				
12:15	【病院へ移動】	12:00	【飯南病院】 ・昼食(病院食)	12:00	【飯南病院】 ・昼食(病院食)
13:00	【来島診療所】 ・外来業務 【飯南病院】 ・飯南町概況 ・コロナワクチン接種	13:00	【飯南病院】 ・救急、時間外	13:00	【在宅】 ・訪問診療
17:10	【宿泊先】	17:10	【宿泊先】	16:00	終了

●今回の実習で得たこと、学んだこと

雲南圏域は、全国でもワースト3位に入るほど医師不足になっている。また、高齢化が進み、健康な高齢者が多くいる一方、若年層では自死が目立つ。

飯南病院は保健センターや行政機関が隣接しているため、さまざまな職種の人との関わりがある。

飯南病院は二次医療機関ではあるが、地域にある病院として、かかりつけ病院でもあり、遠くまで搬送することが難しいときには重症な患者さんも受け入れている。先生方が内科も外科も診ていて、総合医の働く様子を見ることができた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

実際に働く医師の姿を見ることでモチベーション向上になった。一年生であるから、見ていることしかできなかったし、医療的なことはほとんど知識がなかったのは惜しく感じた。今後、しっかり知識をつけてまた行きたいと思った。また、今回は山間部の医療を見ることができたので他の離島などの医療も見ていきたいと考えた。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 気になることを先生に聞くことができた。
- 地域の人とお話してきた。
- 総合医の働く様子を見ることができた。

●お世話になった方へのメッセージ

保健所のKさん、飯南病院のTさん、K先生、先生方ありがとうございました。

三日間がとてもあっという間に感じました。臨床についての知識はほとんどありませんが、先生方が丁寧に教えてくださりなんとなく雰囲気をつかむことができました。地域の人とのつながりも、地域唯一の病院としての役割も感じることでとても充実した時間になりました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

雲南地区 (町立奥出雲病院)

【令和4年度春季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県雲南保健所
- 2 実施年月日 令和5年3月13日(月)～15日(水)
- 3 実習協力機関 町立奥出雲病院
- 4 宿泊場所 サイクリングターミナル
- 5 参加人数 2名
- 6 実習内容 雲南地域における地域医療について

3月13日(月)		3月14日(火)		3月15日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
		8:00	【町立奥出雲病院】 ラウンド	8:00	【町立奥出雲病院】 ラウンド
		9:00	一般外来 等	9:00	一般外来 等
10:00	【雲南保健所】 オリエンテーション 管内の概要説明				
11:10	質疑応答 昼食、休憩				
12:15	【病院へ移動】	12:00	昼食	12:00	昼食
13:15	【町立奥出雲病院】 オリエンテーション 病院見学等	13:00	行政講義、手術見学等	13:00	訪問診療等 (訪問リハ・訪問栄養指導等 に変更もあり)
		15:00	ディスカッション	15:00	振り返り
16:00	ディスカッション	16:00	終了	16:00	終了
17:00	終了				

●今回の実習で得たこと、学んだこと

今回の実習では先生のお話や訪問診療などを通して地域医療の現状について深く学びました。また、手術見学やエコーの見学など貴重な見学をさせていただき、将来像が今までよりも強く想像できるようになったように思います。特に印象に残ったことは三日目の訪問診療と老健への訪問で患者さんの高齢化を痛感し、またそれぞれの病気だけでなく背景や家族、それぞれの思いがあったりして病気を治すだけが医療ではないのだと実感しました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

まずはこれからの自分の働く職場のイメージが強くなったのでより将来に対するモチベーションが上がったように思います。これから学生時代により成長できるよう、勉強やいろいろな経験を積極的にしていこうと思います。病理や臨床は何もわからないままの実習の参加でしたが優しく教えていただいたので、教えていただいたことは理解できました。授業で習う時には今回のことを思い出そうと思います。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 上述した通り地域医療について理解が深まった。
- 将来像がより想像できるようになった。
- これからの学校生活に対するモチベーションがすごく上がった。

●お世話になった方へのメッセージ

一年生の内から貴重な体験やお話をさせていただきとても勉強になりました。また、質問や疑問に対してもわかりやすく優しく丁寧に答えていただきありがとうございました。この経験を活かしより勉強に励み地域医療に貢献できるよう頑張ります。3日間ありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

今回の実習では実際の地域医療について学ぶことができました。県内で場所によって病院の数や大きさに差があることはもちろん知っていましたが、雲南圏域、また奥出雲町内でも病院や診療所のあるところとないところがあり、ない地域でかつ高齢者の方のところへ訪問診療をしていると知りました。また訪問診療には医師だけでなく看護師や栄養士、PTの方などが行くこともあると知りました。さらに同じ症例だとしても大学病院と奥出雲病院ではもちろん、奥出雲病院と飯南病院でもできることが違うので対応が変わるということがわかりました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

1年生で習ったことも直接必要になるものがあると知り、今やっている勉強やこれからやることが将来につながっていると実感を持てたため、2年生になってからはより専門的なことを学ぶので臨床とつながっていることを考え、モチベーションを下げずに授業に取り組むことができると思います。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 「やった」と「できた」は別で考えることをこれからできるようになったと思う。
- 少しだけど自分の考え、目標を人に言えるようになったと思う。
- 島根の医療について少し詳しくなったと思う。

●お世話になった方へのメッセージ

お世話になった病院では職員の方々と実習生の先輩にとっても優しく丁寧に接していただき、大学病院以外で初めての实習でしたが楽しく学ぶことができました。実習のために時間を調整してくださったり良い体験ができるよう考えて下さったりしていた姿を見てよりしっかりと学ばなくてははいけないと思いました。三日間私たちへ時間を割いて貴重な体験をさせてくださりありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

出雲地区

【令和4年度春季地域医療実習実績報告】

1 実施機関

島根県出雲保健所

2 実施年月日

令和5年3月13日(月)～15日(水)

3 実習協力機関

出雲市立乙立里家診療所、島根県立こころの医療センター、
医療法人 江口内科医院、医療法人つたや会 在宅診療所いずも、
社会福祉法人 ふぁっと、Grow訪問看護ステーション

4 宿泊場所

自宅

5 参加人数

2名

6 実習内容

出雲圏域における地域医療について学ぶ

3月13日(月)		3月14日(火)		3月15日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
8:30	保健所集合 【出雲保健所】 オリエンテーション 管内概況 保健所業務等の説明	8:30	保健所出発	8:30	保健所出発
		9:00	社会福祉法人実習 【ふぁっと】 施設見学、地域支援について、利用者との交流	9:00	病院(精神科)実習 【こころの医療センター】 精神科医療の状況、院内見学
12:00	実習終了 (昼食:保健所内)	11:30	実習終了 (昼食:就労支援事業所)	11:30	実習終了 (昼食:保健所内)
14:00	診療所実習 【乙立里家診療所】 概要説明、外来診療見学	13:00	訪問診療実習 【在宅診療所いずも】1名 【江口内科医院】1名 訪問診療同行	12:30	訪問看護実習 【Grow訪問看護ステーション】 訪問看護同行
16:00	実習終了				
16:30	保健所着、記録まとめ	16:30	実習終了		
16:45	終了	16:45	保健所着、記録まとめ	16:50	実習終了
		17:00	終了	17:00	保健所着、記録まとめ
				17:15	終了

●今回の実習で得たこと、学んだこと

出雲に限らず、島根県全体として患者、医師共に高齢化が進んでいるように感じました。人は年齢を重ねるごとに、自分の身体に不自由を感じる機会が増えます。そのような中で、患者さんそれぞれがその不自由に対してどれだけ深刻に考えているかということ医師は個別に話してくみ取る必要があるということ学びました。また精神障害を持たれる方への支援の難しさと、その必要性についても学ぶことができました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

1日目に見せていただいた診療所での診察の様子は、まさに地域医療に必要な患者さんと医師の密接な関係が築かれており、患者さんが悩みを何でも医師に相談できるような環境でした。将来自分が医師になった時、患者さんから頼られるような医師になりたいということを再確認することができました。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 訪問診療や診療所の役割について理解できた。
- 精神障害を持った方と少しコミュニケーションが取れるようになった。
- 医師になってこの地域に貢献したいという意志が芽生えた。

●お世話になった方へのメッセージ

保健所の方々をはじめ、多くの方が私たち学生が有意義な実習に取り組めるようサポートしてくださりありがとうございました。また、実習先の施設の方も私たちにとって大変貴重な経験をさせてくださいました。重ねてお礼申し上げます。立派な医師になって恩返しできるよう勉強に励みたいと思います。

●今回の実習で得たこと、学んだこと

- ・出雲で自死数が年間約20人、精神科の受診に約3ヶ月待ちもあること。
- ・診療所では患者さんとそのとりまく環境の全体をみた診療が大切。
- ・精神科を退院しようとしても、家族との関係や社会の偏見で家に帰れなかったり、アパートを借りられなかったりして、社会的な入院があること。
- ・診療所どうして協力して24時間往診・訪問看護の体制をとっている。
- ・こころの医療センターでは病院のいたるところが一般的な病院と作りが違っていた。
- ・訪問看護は診療と比べ、1つ1つの訪問時間が長く、患者さん、家族、施設の方のお話を丁寧に聞いていた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

- ・友人や後輩たちに学んだことを伝え、問題意識を持ってもらうことや、実習にいきたい気持ちを喚起する。
- ・医療の知識を今後つける一方、地域には問題点と素晴らしい制度があることを忘れず、解決への貢献や利用をしていきたい。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 出雲も医療が行き届いていないところがあることを知ることができたこと。
- 精神疾患についての知識を深め、さらなる興味をもつことができたこと。
- 島根県の医療体制を知り、今まで不自由なく生活させてもらっていたことに感謝の気持ちを持つようになったこと。

●お世話になった方へのメッセージ

出雲保健所のWさんをはじめ、お忙しい中わたしを受け入れ、多くの体験をさせていただいたことを心より感謝いたします。

県央地区

【令和4年度春季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県県央保健所
- 2 実施年月日 令和5年3月13日(月)～14日(火)
- 3 実習協力機関 公立邑智病院、加藤病院
- 4 宿泊場所 公立邑智病院宿舎
- 5 参加人数 2名
- 6 実習内容 大田地域における地域医療について

3月13日(月)		3月14日(火)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
9:00	【県央保健所】 オリエンテーション	7:45	朝食 移動:タクシー
11:00	昼食	8:00	【加藤病院】 病院実習
12:00	移動:タクシー	12:00	昼食
13:00	【公立邑智病院】 病院実習	15:00	実習終了 移動:タクシー
17:00	救急外来実習 夕食 宿泊:公立邑智病院	15:45	【県央保健所】 実習報告会
		16:15	実習終了・解散

●今回の実習で得たこと、学んだこと

地域医療の良さとして患者と医師との距離感の近さや、患者の生活を基盤にした医療提供を行える点があげられると思います。邑智病院では診療看護師の力を借りたりすることでマンパワー不足へ対応をしたり、患者さんに対して多角的な視点から医療提供を行えるようにしていました。また加藤病院では訪問診療を行い患者の生活の一部として医療が存在していること実感しました。どちらの病院も医療従事者の方が、病院の役割を意識しながら患者が来た時の状態のまま元の生活に戻れるように全力で取り組んでおり、地域医療に対する意識の高さを感じることができました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

今後授業で学ぶことは、理論的なことが多く大変だと思います。ですが習得した知識の先には医療を求めている地域の方々がいるということを忘れずに一生懸命勉強に取り組みたいです。また今回の実習では、島根の地域医療に従事する方々の意識の高さに気づくと同時にまだまだ地域には人手が足りておらず、若手が不足しているという現状も目の当たりにしました。だから島根の地域医療への意識の高さなどの良さをアピールしたり、県全体としてのバックアップ体制が整っていることを示したりしていくことで若者を呼び込んでいくことも大切だと思いました。また、今後も他の地域の医療実習に参加したり、同じ病院にもう一度参加したりして島根の地域医療に対して自分なりに理解を深めていきたいと思っています。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 島根県の医療に対する理解を深めることができた。
- 体調管理を徹底することがどれだけ大切かということに気づけた。
- 自分の理想の医師像をより具体的に考えられるようになった。

●お世話になった方へのメッセージ

まず新型コロナウイルスの影響で先の見通しが立てにくい中、試行錯誤を重ね今回の実習を組んでくださった県央保健所のTさんをはじめとするすべての方に感謝したいです。邑智病院では主にH先生に同行させていただき、急患の見学をさせていただきましたが、私達にもわかりやすいように説明して下さったり、病気について一緒に考えてくださったのでとても勉強になりました。また僻地の医療に従事する先輩の生活の様子などの生の声が聞けたのも貴重な経験になりました。加藤病院ではO先生の訪問診療に同行させていただきましたが、地域にとってどれほど医療が必要とされているのか感じる事ができましたし、医師の患者さんに対する姿勢や声かけの重みを感じられました。これからたくさん努力して先生方のような医師になれるように頑張ります！今回はありがとうございました。

●今回の実習で得たこと、学んだこと

訪問診療を初めて見学させていただきました。独居の老人の患者が多いと考えていましたが、実際には家族の方と一緒に生活しているが、何らかの理由で通院が困難である患者も多かったように感じました。また、認知症の患者も多く軽度から重度の方までさまざまな患者がいました。その中で一つ重度の認知症患者の治療方針に関する意思決定が問題になっているということを学びました。認知症が重度になる前にしっかりと家族と患者自身で治療方針や最後の迎え方を決定しておくことが大切であると感じました。

また、邑智病院では救急外来の患者の対応見学をしました。こちらも高齢者の患者が多く外科的な処置から内科的な処置まで診療看護師さんと当直医が協力して処置を行っておられました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

今回の実習では地域での救急対応を担う邑智病院と、サブアキュート、ポストアキュートの役割を果たす加藤病院を見学しました。その他県内で違った役割を果たす病院に見学に行った際に違いを見つけ、なぜこの土地にこの役割を持った病院が必要になるのかを考える際に今回の実習の経験を活かしていきたいと思います。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 病院の形態に関する知識。
- 認知症患者やそれを取り巻く環境に関する知識。
- 病院以外の福祉施設に関する役割の理解。

●お世話になった方へのメッセージ

2日間と短い期間でしたがとても多くのことを学ばせていただきました。病院職員の方が、一つ一つの質問にとっても丁寧にわかりやすく答えていただきました。今回自分はまだ一年生だったので医学的な知識がほとんどない状態での実習でした。しっかりとした医学知識をつけて、またこの県央地区で実習したいと強く感じました。

この度は本当にありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

浜田地区

【令和4年度春季地域医療実習実績報告】

1 実施機関

島根県浜田保健所

2 実施年月日

令和5年3月13日(月)～15日(水)

3 実習協力機関

独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター、島根県済生会江津総合病院、西部島根医療福祉センター、浜田市国民健康保険診療所(弥栄診療所、あさひ診療所、波佐診療所)

4 宿泊場所

ホテルルートイン浜田駅前

5 参加人数

3名

6 実習内容

浜田圏域における地域医療・保健・福祉体制について

3月13日(月)		3月14日(火)		3月15日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
8:30	浜田市国保診療所での実習 1班:弥栄診療所(1名) 2班:あさひ診療所(1名) 3班:波佐診療所(1名)	8:30	島根県済生会江津総合病院、西部島根医療福祉センターでの実習 A班:西部島根医療福祉センター(2名) B班:島根県済生会江津総合病院(1名) 浜田保健所長講話(3名)	8:30	浜田医療センターでの実習 浜田医療センター(3名) 意見交換会 実習終了

●今回の実習で得たこと、学んだこと

実際に地域の医療がどのようになされているのか、どのように連携されているのかを自分の目で直接確かめることができたのは非常に良かったです。それと同時に島根の医療に今必要なものは何か、必要な対策はどのようなのかについても考えることができました。患者さんとのコミュニケーションの取り方から実際の手術の見学まで、本当に医療において幅広い体験をさせていただくことができ、自分の将来像が段々と見えてきた感じがして今回の実習が非常にためになったように思えます。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

医療の現場に限らずコミュニケーションの上手な取り方を学べたように思えます。それをもちろん実習でもそうですが、日常生活から活用していきたいと思います。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 島根県の医療に関する知識が増えたこと。
- 患者さんからの視点で物事を見れたこと。
- コミュニケーション能力が上がったこと。

●お世話になった方へのメッセージ

大変お世話になりました、ありがとうございました。

●今回の実習で得たこと、学んだこと

地域実習を通して地域医療の現状を目に見て学ぶことができました。
地域の病院が抱える様々な問題を自分の目で見て感じる事ができてよかったです。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

医師不足の現状を目の当たりにして、同級生や周りの人にも地域の医療体制について発信していきたいです。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 地域医療について深く考えられた。
- 患者さんに寄り添うことの大切さがわかった。
- チーム医療の大切さがわかった。

●お世話になった方へのメッセージ

三日間大変お世話になりました。
また実習に行く際はよろしくお願いします。

●今回の実習で得たこと、学んだこと

診療所と病院(医療センター)での診察、医療の相違点を少し見つけることができた(患者さんとの距離、他の科との連携の有無など)。訪問診療見学の際の患者さんや、西部医療センターでの患者さんの生活の様子をほんの一部かもしれないが理解できた。手術が行われるまでの準備(器具の用意や麻酔など)や実際の手術の様子、雰囲気を見て感じとることができた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

今回の実習では自分が気づくことができた部分以外にも、もっとよく観察すれば気づくことができた大事な点が多くあるはずなので、今回のような実習が今後あった際にはより集中して臨み、また別の視点からも考えながら実習できるようにする。診察や患者さんと話す際の様子を参考にして、教えていただいたコツに注意しながら、自分もうまく接することが出来るように練習する。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 診療所や医療センターの機能、役割を理解することができるようになった。
- 診療所間などにおける多職種連携を理解できる。
- 厳しい医療状況へどのように対応するのかを考えることができる。

●お世話になった方へのメッセージ

まだ一年生なのでまだまだ知らないことだらけだった私に、基本的なことから丁寧に優しく教えてくださり本当にありがとうございました。どの場所においてもそれぞれで異なる特徴的な体験をすることができ、とても貴重な経験ができました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

益田地区

【令和4年度春季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県益田保健所
- 2 実施年月日 令和5年3月13日(月)～15日(水)
- 3 実習協力機関 益田赤十字病院、益田地域医療センター医師会病院、松ヶ丘病院
- 4 宿泊場所 益田グリーンホテルモーリス
- 5 参加人数 3名
- 6 実習内容 益田圏域における地域医療について

3月13日(月)		3月14日(火)		3月15日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
	(各自)ホテルチェックイン	8:05	ホテル出発	8:00	ホテル出発
		8:30	○益田地域医療センター医師会病院 診療見学等	8:30	○松ヶ丘医院 診療見学等
			昼食・休憩		昼食・休憩
13:15	○益田保健所集合 保健所長講義				
14:45	保健所出発				
15:00	○益田赤十字病院 診療見学 夜間救急見学等			16:00	松ヶ丘病院出発
				16:30	○益田保健所 意見交換
		17:00	実習終了 ホテル泊	17:15	実習終了 解散
21:00	実習終了 ホテル泊				

●今回の実習で得たこと、学んだこと

益田地区の医療は、病院完結型ではなく地域完結型であることを学んだ。益田赤十字病院は急性期、回復期などは医師会病院、精神疾患や認知症は松ヶ丘病院といった風に病院ごとに守備範囲が分かれていると知った。このことが、面積的に広い益田地区で自圏域内完結率が9割を超えている要因の1つでもあると感じた。また2日目の巡回診療は、病院以上に地域に密着した医療の在り方であることを感じた。具体的には医師が患者さんをあだ名で呼んでいたり、畑や趣味の話をしたりしている様子が見られた。患者さん同士も待ち時間に楽しそうにお喋りをされている声が診察室に聞こえ、診療という医療行為以外にも、地域住民が月に1度顔を合わせる居場所としても地域に役立っているのではないかと思った。しかし80代の先生が現役で働いていることを知り、医師の高齢化という課題を実感する機会にもなった。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

地域医療とは、地域全体で医療を支える仕組みであると学んだので、医療行為ができない低学年のうちは、地域の方に話を伺ったり地域の医療の実態を調べ関心を高めたりして、地域医療に関わっていこうと思う。これからの地域医療実習では、益田地区と他地区での取り組みの相違点に注目しながら臨みたい。意見交換会では他圏域の実状を知ることができたが、実際に現場にいなければ学べないこともあると思うので、そうしたことも今後経験していこうと思う。また、学年が上がれば同じ場所でも理解できる内容が増え学びが深まると思うのでもう一度地元である益田圏域で実習を行いたい。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 診察時に患者さんに対して会釈をしたり挨拶をしたりした点。
- 疑問に思ったことを質問できる機会に口に出せた点。
- 自分が体験したことを他の人に伝えるように考えて話すように心がけた点。

●お世話になった方へのメッセージ

お忙しい中、施設の案内や説明、ご指導をしてくださりありがとうございました。大学病院での体験実習とは違い、地域の方々との距離感の近い体験をすることができ貴重な3日間を過ごすことができました。また、研修医の先生や、作業療法士、精神保健福祉士といった職種の方のお話を聴くこともでき、自分の将来を考えたり医師以外の視点で患者さんとの接し方に思いを巡らせたりするきっかけになりました。ありがとうございました。

●今回の実習で得たこと、学んだこと

益田圏域の医療では、急性期は赤十字病院、回復期慢性期は医師会病院、精神科は松ヶ丘病院、など病院間での役割分担、連携を強化することで、地域全体で地域医療を支えていることを学びました。一方で、医師の偏在や医師の高齢化も課題としてあることを学びました。実習を通して、医療は決して医師一人ではなく、多職種の方との連携・協力があってこそそのものだと感じました。無医地区でのご高齢の先生の巡回診療が特に印象に残っており、将来自分も、生涯、地域医療を支えることのできる医師になりたいと、さらに強く思うようになりました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

益田地区の地域医療の良さと課題を学ぶことができたので、今後は、将来医師になった時に、具体的にどのように地域医療に携わっていきたいか、意見を持てるようになりたいです。また、医療に携わるうえで必要なコミュニケーション能力や体力を今後の大学生活でさらに身につけようと思います。これからも、他の地区の実習にも参加して、地域医療についての学びを深めたいです。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 地域医療が抱える課題について具体的に説明できるようになった。
- 意見交流会などを通じて、自分が体験したことや感じたことを言語化する力がついた。
- 将来医師としてどのように地域医療に携わっていきたいか、考えることができた。

●お世話になった方へのメッセージ

どの先生も、コメディカルの方も保健所の方も他のスタッフの方も、熱心に教えてください、益田の地域医療に対する使命感の強さに感銘を受けました。地域で必要とされ、地域の人に愛され、地域のために働ける医師になるのだと、改めて感じました。自分はどのように地域医療に携わっていきたいか考えることができ、とても貴重な経験になりました。ありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

全体を通して、益田圏域における医療提供の仕組みを理解することができた。特に、病院ごとに役割を分けることによって少ない医療資源で地域医療を担えるように効率化する仕組みはとても参考になった。

どの実習先でも、医師をはじめとした様々な職種の医療従事者の方々が同様に地域医療に対する高い知見、意識をもっており、感銘を受けた。また、将来地域医療を担う人間としてモチベーションを得ることができた。

研修医の先生方と益田圏域の医療や研修医の島根でのキャリアについてお話をさせていただくことで、自分の将来のビジョンをある程度固めることができた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

今回得た益田圏域での地域医療に関する知識を活かして、島根県の他の圏域の地域医療の特徴についても学んでいきたい。

今回実際に地域医療を体験した経験を卒業後のキャリア形成に活かしたい。

今回得たモチベーションを普段の勉強に活かしたい。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

○益田圏域の地域医療の仕組みについて見識を深めることができ、成長した。

○地域住民の方とのコミュニケーションについて実際に診療などを見学して接し方を学べた。

○地域医療に実際に触れたことで、自分の卒後キャリアを明確にイメージできるようになった。

●お世話になった方へのメッセージ

今回お世話になった益田保健所、益田赤十字病院、益田医師会病院、松ヶ丘病院の方々には本当に感謝しかありません。実習中は細かいことまで懇切丁寧に説明していただき、またどんな質問にも丁寧に答えていただけて本当に助かりました。どの方も医療従事者の先輩としてとても尊敬できる方ばかりで、自分もそのような医療従事者になれるようにこれから精進していきたいと思っています。三日間本当にありがとうございました。

隠岐地区（島後地区）

【令和4年度春季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県隠岐保健所
- 2 実施年月日 令和5年3月13日(月)～16日(木)
- 3 実習協力機関 隠岐広域連合立隠岐病院、隠岐の島町国民健康保険 五箇診療所、
隠岐の島町布施へき地診療所、高梨医院、隠岐の島町地域包括支援センター
- 4 宿泊場所 アイランドホテルしまじ
- 5 参加人数 3名
- 6 実習内容 隠岐島後地区における保健・医療、地域医療体験

3月13日(月)		3月14日(火)		3月15日(水)		3月16日(木)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
		9:00	【地域包括支援センター】 業務説明、訪問	8:30	【五箇診療所】(1名) 【布施診療所】(1名) 【高梨医院】(1名)	9:00	【隠岐病院】 総診外来の初診・再診をローテーション
11:25	西郷港着 休憩	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
13:20	オリエンテーション 所長講義	13:00	【隠岐病院】 院内案内及びレクチャー	13:30	【隠岐病院】 訪問リハ、救急	13:00	意見交換会
15:00	宿泊先案内・解散	16:00	保健所まで送迎 解散	17:00	保健所まで送迎 解散	15:10	西郷港発

●今回の実習で得たこと、学んだこと

地域医療実習では診療所、地域包括支援センター、隠岐病院と様々な施設を見学することができた。その中で共通して感じたことは患者と医療者の距離がとても近いということだ。このことは両者の信頼関係を築くうえでも重要ではあるが患者の社会的背景を把握し個人個人の問題点をとても把握しやすいと感じた。そして本当の意味での共感の姿勢を持ったあたたかい医療が提供されていると強く感じた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

私の通う千葉大学ではまだまだ地域医療やへき地医療に関心を持つ学生が少ないと感じている。今回実習に参加して地域医療の魅力、特に人と人とのつながりを感じ社会的背景をも把握することができ患者個人それぞれに合った医療を届けやすいという魅力を感じたのでそれらを伝えていく使命があると感じた。また、離島や地域医療は総合診療が中心となるが、どの状態が専門機関に搬送する必要があるのかを見極めるためにも様々な症例を学ぶ必要があると感じた。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 地域医療における医療者、行政関係者、地域住民のつながりの連携の重要性を実感した。
- 患者の社会的背景を把握することと医療の関連を理解した。
- 総合診療では全身なんでも診る姿を見て、今後何科に進もうともあらゆる診療科の勉強をする必要性を実感した。

●お世話になった方へのメッセージ

4日間という短い期間でしたが、医療実習だけでなくおいしいご飯や綺麗な夕日の見える場所に連れて行ってくださりありがとうございました。一人千葉県から来て初めての隠岐ということもあり不安が大きかったですがとても楽しく実習を行えました。医療現場でも、今まで机上で習ってきた地域との連携というものが実際にどういったものなのかを目の前で見ることができてとても勉強になりました。自大学病院での実習だけでは学びきれない部分を学習することができたと思います。お忙しい中様々な手配、機会を設けていただき本当にありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

隠岐の島は本土からフェリーで北へ2時間半の場所に位置し、人口は2万人程度。本土との交通手段は航空機又はフェリーである。しかし、冬の日本海域は悪天候が多く、フェリーの欠航頻度が高くなる。離島は医療資源に限りがあり、対処不可能な症状は本土の大病院に頼る。隠岐病院で対応できない患者は、ヘリを使い本土に搬送され、自力で移動可能な患者は自分で本土へ行き受診する。搬送方法も天候により左右されるため、それに対応した手段をいくつか事前に準備することが必要となる。患者の話の中で、本土に通院する時の患者と付き添う家族の金銭面や体力面の厳しさを感じた。隠岐で勤務する医師は救急搬送だけでなく、一般診療においても、島内で対応可能か否か、患者の体力面も考慮し、正確に判断する必要があることを学んだ。

隠岐の島の医療問題としては医師不足、医師の高齢化が挙げられる。また、長く働く医師が少ないことも問題として挙げられた。少ない人員の中で、他職種と円滑な連携を図ることで隠岐の医療を支えていることを隠岐病院及び布施診療所研修を通じて、実感した。

医療面接では患者とその親族、行政、受け入れ先の施設管理者が参加し、患者の退院後について話し合われていた。患者が生活の乱れにより体調不良を引き起こし、再び入院しないような生活作りが考えられた。地元で過ごしたい、親族の世話になりたくないという本人の希望があるが、貧困などのシビアな現実があり、医師が中心となりその時点での最善策を説明し、本人が納得できるよう話し合うことの重要性を感じた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

隠岐病院、布施診療所見学では医師と患者、その家族との距離の近さ、また信頼関係の深さを感じた。治療を行うにあたり、患者の年齢、既往歴、体力を加味し、何がその患者に最適な治療かオーダーメイドな医療を考える必要がある。また、患者のケアだけでなく、看病する家族の心のケアも行っていた。実際に、間近で医師と患者の対応を見て、患者に寄り添う医療を行えるようになりたいと思った。

離島医療の現場では限られた医療資源の中で、自分のできることとできないことの線引きを行う必要がある。今後、医学知識の習得を通じ技術を身につけ、人間として自分の幅を広げると共に、そのような判断を迅速かつ正確に下せるよう精進したい。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 将来の医師像を想像することができた。
- 臨床の現場で微生物学や解剖学などの基礎医学の知識こそ必要となると実感できた。
- 医療現場で他職種間の連携が不可欠であると理解できた。

●お世話になった方へのメッセージ

充実した実習を経験することができました。計画の立案及び各所との調整をしていただきありがとうございます。医療従事者として、医学の習得だけでなく人間性の育成も不可欠であると実感することができました。医師は患者、その家族の病気や怪我以外のシビアな面も考慮しなければならず、それは教材から得る知識だけでは対処できないこともあると考えます。今後も色々な実習に参加し、医師としての人間性の涵養に努めたいと思ういい経験となりました。

最後になりますが、本実習で多くを学ばせていただきありがとうございました。

●今回の実習で得たこと、学んだこと

今回の実習で学んだことは大きく2つある。1つは、患者と医師の距離の近さである。特に、五箇診療所での外来見学では、患者さんの病気に関する話だけではなく、仕事や家族のことなど日々の生活環境についても話を聞いていたのが印象的だった。ただ、一見こうした雑談のように聞こえる会話の中でも、病気に関係しそうな情報を聞き出そうとしている先生の様子が伺われ、大変勉強になった。また、どの先生の外来でも、患者さんは医師に多大な信頼を置いており、患者さんと医師の良好なラポール関係が感じられた。

2つめは、総合診療医の診療範囲の広さである。実習前までは、総合診療医の診療について、何となく、広く浅くのイメージで、具体的にどのような診療をしているのかが想像できなかった。しかし、本実習を通じて、隠岐病院の総合診療医が上部・下部内視鏡検査などの高度な検査も卒なくこなしているのを見学し、大変感銘を受けた。そして、隠岐病院は隠岐にある唯一の総合病院であるため、町民のためにこの病院でできるだけ治療を完結させようという、先生方の熱い気持ちと責任感を肌で感じる事ができた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

本実習を通じて、これまで机の上で学んできたことが、実際の診療でどのように行われているのかを学ぶことができた(検査、診断など)。しかし、自分の理解が不十分のため、実際に見学をしても座学と臨床の知識を結びつけるのが困難なことも多かった。よって、今回見学をした分野に関する復習を行い、理解を深めることで今後のCBTや国家試験対策にも活かしていきたいと思う。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 色々な制約がある離島医療の中でも、できることを最大限行い患者のために尽力する医師や医療従事者の姿勢を学べた点。
- 患者さんに対して、まずは症状や病気を治すことが第一であるが、患者さんが病院に来た理由をしっかりと把握し(特に初診や救急外来に来た患者さん)、患者さんが満足して帰宅できるように対応することの大切さを学んだ点。
- 医師を取り巻く環境では、様々な職種の方が関わっており、良質な医療を提供するためには多職種連携が不可欠であることを学べた点。

●お世話になった方へのメッセージ

4日間春季地域医療実習をさせていただき大変ありがとうございました。実習にご協力いただいた保健所の職員の方々、隠岐病院と各診療所の先生やスタッフの方々、地域包括支援センターの担当者の方々に深く御礼申し上げます。そして、私たち学生の実習にご協力いただいた隠岐島後の住民の方々にも大変感謝申し上げます。今回は3年生という、まだ座学しか学んでいない状態で実習に参加させていただきましたが、それでも大変多くのことを学ばせていただきました。ただ、今後高学年で実習を経験するにつれて、また違った視点を持つようになると思うので、今度は5年生や6年生になったらまたぜひ隠岐の実習に参加したいと思います！繰り返しになりますが、この度はお世話になりました、本当にありがとうございました。

隠岐地区 (島前地区)

【令和4年度春季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県隠岐保健所
- 2 実施年月日 令和5年3月13日(月)～16日(木)
- 3 実習協力機関 隠岐広域連合立隠岐島前病院、西ノ島町地域包括支援センター
- 4 宿泊場所 リゾ隠岐ロザージュ
- 5 参加人数 2名
- 6 実習内容 隠岐島前地区における保健・医療、地域医療体験

3月13日(月)		3月14日(火)		3月15日(水)		3月16日(木)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
		8:00	【隠岐島前病院】 内科2診(1名) 外科(1名)	8:00	【隠岐島前病院】 外来検査(1名) 病棟回診(1名)	8:00	【隠岐島前病院】 外科(1名) 内科2診(1名)
12:05	別府港着	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
13:20	オリエンテーション 所長講義	13:00	【隠岐島前病院】 救急当番	13:00	【西ノ島町地域包括 支援センター】 地区のサロン 活動説明	13:00	振り返り、意見交換会
15:00	宿泊所案内・解散					15:45	別府港発
		17:00	解散	17:00	解散		

●今回の実習で得たこと、学んだこと

船での交通や天候に生活が左右されている、ということ。本土で暮らしていて、交通や医療の面で不便だな、と感じる部分が多いと外からみると思うことがあるが、隠岐で暮らしている方々は、天候に左右されることや船での移動がある生活、ということが生活の一部として当たり前なものとして生活されている、ということがわかった。松江や鳥取に搬送されることがあるが、隠岐には帰ってくる、病気を治して帰ってくる、ということができていて、病気をしても安心して暮らし続けることができる体制が整っていると感じた。また島でできることは島で行う、という面では、専門知識が全くいらないわけではなく、自分が診ている目の前の患者さんの身体のことはしっかりと知っていなければならない上で、どういう治療ならばできるのか、という面で知識はあっても足りないくらいである、と感じた。医療の知識は日々蓄積されており、アップデートをすることは物理的に不可能であるため、どうすれば自分をアップデートできるか、どう自分ができるのか、ということをも身につけていきたいと感じた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

エコーを実際に外来や病棟で使用しているのを見て、3年後期で身につけたエコーの知識が役に立ったと同時に、まだわからないことがたくさんあり、特に整形領域は筋肉といった解剖学の知識が必要で、知識不足を痛感した。解剖学の知識がエコーなど実地ではどのように使われるか、ということ意識しながら勉強していきたい。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 医師以外の多職種の方が、どのように動いているか、自分に何ができるかを考えながら動くようになった。
- その土地に住まう人の生活を想像しながら、同じ言葉を使うように意識できた。
- 目の前の医療と公衆衛生の視点の両方からその土地のことを理解しようとした。

●お世話になった方へのメッセージ

4日間大変お世話になりました。隠岐の海の美しい風景に心踊らされた感情と、島での医療を自分の目で確かめて見えてきたことを胸にこれからの勉強も頑張っていきます。また隠岐を訪れた際にはどうぞよろしくお願い致します。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

島前病院を見学させていただき、離島の医療についてであったり、総合診療医の働き方であったりを学ぶことが出来ました。離島ならではの特徵として、患者さんの搬送手段に船・フェリーも含まれることや、透析など、治療内容によっては島に住み続けること自体難しいという状況を知りました。

また、外来見学や健康サロンへの参加を通して、医療従事者と患者さん・地域住民同士のつながりの深さを感じました。隠岐地域は高齢化率が著しく高いですが、そのようなつながりの深さが特に高齢者の孤立化を防止し、精神面の健康も支えているのではないかと感じました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

私は総合診療科に興味を持っており、今回の実習で総合診療医の業務の幅広さを学びましたので、特定の科に偏ることなく学びを深めていきたいと思いました。島前病院では超音波検査が多用されており、先生方の技術力の高さが伺えましたので、勉強会に参加するなどして自主的に学びたいと思います。

また、先生から「医学で学べないことも学んでおくことが大切」、「学生のうちに長く続けられる趣味を見つけておくのが良い」とコメントをいただきましたので、勉学のみ集中するのではなく課外活動にも力を入れて、常に広い視野を持っていたいと思いました。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 医療従事者や地域住民の方々と積極的に会話することができた。
- 座学で学んだことが臨床現場でどう生かされているかを考えることができた。
- 病院を訪問した際に見学のみで終わらないよう行動できた(超音波検査を行う、患者さん対応をする、カルテを記入する等)。

●お世話になった方へのメッセージ

とても充実した実習を行うことが出来ました。お忙しい中、あたたかく迎えていただき本当にありがとうございました。実習で学んだことを生かして今後の学生生活を送りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

令和4年度春季地域医療実習 (地域医療体験実習Ⅰ)意見交換会

実習後に、参加学生、本学教員、島根県及び実習機関関係者が参加する意見交換会をオンラインで行った。当日は異なる圏域に実習に行った学生4～5名と、島根県及び実習機関関係者1～2名で1グループになり、「実習で一番印象に残った体験」、「島根の地域医療の良いところ・課題」、「島根の地域医療の改善策」の3つのテーマに沿って話し合った。最後に全5グループそれぞれの代表が自身のグループで話し合った内容を発表した。

日 時 令和5年3月17日(金)14:00～16:00(Web開催)

参加者 合計34名
・島根県及び実習機関関係者：7名
・大学関係者：5名
・実習参加学生：22名

令和5年度夏季地域医療実習 (地域医療体験実習Ⅰ)概要

実習目標

医学科の学生が、地域医療拠点病院・へき地診療所等の活動や地域との連携を実地で体験・学習することにより、地域医療や公衆衛生業務に対する理解を深めることを目的に、島根大学が島根県からの委託を受けて実施します。

実施時期

令和5年8月21日(月)～24日(木) (地域により異なる)

対象

- (1) 島根の地域医療に興味を持つ医学生(在籍する大学や出身地は問いません)
- (2) 島根県出身の自治医科大学在学中の医学生
- (3) 島根県から奨学金の貸与を受けた医学生

実習地区

松江・雲南(雲南市立病院、飯南病院、町立奥出雲病院)・出雲・
県央(大田、邑智)・浜田・益田・隠岐(島後、島前)

参加者

合計21名 ※当初は27名の予定だったが、体調不良等により6名辞退
(地域別内訳) 松江 1名、雲南 6名、出雲 1名、県央 4名、浜田 2名、
益田 2名、隠岐 5名
(学年別内訳) 1年生 7名、2年生 2名、3年生 5名、4年生 5名、5年生 2名
(大学別内訳) 島根大学 12名、鳥取大学 3名、自治医科大学 4名、
筑波大学 1名、長崎大学 1名

実習中の課題

- ・ 実習前に計画書を作成し、各々の目標を定める。
- ・ 実習中は毎日Day Sheetを記入し、実習で学んだことを書き留める。
- ・ 実習の最後に保健所にて、意見交換会を行う。
- ・ 実習参加者全員で、
①実習で一番印象に残った体験 ②島根の地域医療の良いところや課題 ③島根の地域医療の改善策について
意見交換を行い、県や保健所担当からアドバイスも受ける。
- ・ 各自報告書を作成する。

指導教員

島根大学医学部

地域医療支援学講座 教授	佐野千晶	地域医療支援学講座 助教	布野慶人
地域医療支援学講座 助教	堀田優希江	地域医療支援学講座 特任助教	宅野真由美

令和5年度夏季地域医療実習 募集要項

地域医療を体験してみませんか

～ 夏季地域医療実習の参加者を募集します ～

島根県の中山間地や離島等、過疎地域においては、医師の不足をはじめ、医療の確保が深刻な問題となっています。

島根大学は、本学のみならず全国の医学生みなさんに島根の地域医療に対する理解を深めていただくため、中山間地や離島の医療機関等での医療実習を、島根県と共に実施します。

対象

- (1) 島根の地域医療に興味を持つ医学生(在籍する大学や出身地は問いません)
- (2) 島根県出身の自治医科大学在学中の医学生
- (3) 島根県から奨学金の貸与を受けた医学生

費用

島根大学医学部（出雲市塩冶町89-1）より各実施地区までの旅費（宿泊費等含む）、および実習期間中の傷害保険・損害保険にかかわる費用については、島根大学が負担します。なお、旅費は、実習終了後の口座振込としますので、実習期間中は一旦自己負担してください。

県内の7圏域で実施します。

実施機関	実施地区等		日程	募集定員
松江保健所	松江		8月21日(月)・22日(火)・24日(木)	2名
雲南保健所	雲南	雲南市立病院	8月21日(月)～23日(水)	3名
		飯南病院	8月21日(月)～23日(水)	2名
		町立奥出雲病院	8月21日(月)～23日(水)	3名
出雲保健所	出雲		8月22日(火)～24日(木)	2名
県央保健所	県央	大田地区	8月22日(火)～24日(木)	2名
		邑智地区	8月22日(火)～24日(木)	2名
浜田保健所	浜田		8月21日(月)～23日(水)	3名
益田保健所	益田		8月21日(月)～23日(水)	3名
隠岐保健所	隠岐	島後地区	8月21日(月)～24日(木)	3名
		島前地区	8月21日(月)～24日(木)	2名
計				27名

意見交換会

8月25日(金)午後、本学および島根県の関係者との意見交換会をオンラインで開催します。実習参加者は、原則として全員参加してください。

応募方法

島根大学医学部ホームページに掲載の申し込みフォームに必要事項を入力してください。〆切は7月5日(月)です。(アドレス等詳細後述)

～ 地域別実習内容 ～

実習期間中のスケジュール、必要経費等、各実施機関が作成した実習計画の詳細は、島根大学医学部ホームページ(アドレス後述)に掲載しています。

松江地区

【日 程】 令和5年8月21日(月)・22日(火)・24日(木)

【募集人数】 2名

【実施機関】 松江市・島根県共同設置松江保健所

【実習協力機関】 松江市国民健康保険来待診療所、安来市立病院

【実習のセールスポイント】

●松江市民国民健康保険来待診療所

健康増進を目的とした複合施設の中にあり、地域に密着した医療、中山間地における診療所の役割や現状を学ぶことができます。

●安来市立病院

安来市の救急医療の中心的役割を担うと共に、無医地区への巡回診療を実施されています。また、地域医療拠点病院として各機関との連携を図ると共に、在宅医療にも積極的に取り組まれており、中山間地に位置する病院の役割や現状を学ぶことができます。

雲南地区

【日 程】 令和5年8月21日(月)～23日(水)

【募集人数】 雲南市立病院 3名、飯南病院 2名、町立奥出雲病院 3名

【実施機関】 島根県雲南保健所

【実習協力機関】 雲南市立病院、飯南病院、町立奥出雲病院

【実習のセールスポイント】

●雲南市立病院

実習を通じて、地域の中核病院としての役割や地域医療の現状を学ぶことができます。

また、総合医育成に力を入れており、「病気だけでなく暮らしを見ることのできる医師」を育てる取り組みを行い、地域から愛される医師を育てていきます。幅広い活動内容とスタッフの熱い思いに是非触れてみてください。感染症が流行すると十分な実習が提供できるか分かりませんが何か感じ取ってもらえると思います

●飯南病院

『総合医』と『プライマリケア』をキーワードに、地域で活用してもらえる病院を目指しています。

医師は、住民の日常を支える『かかりつけ医』の役割と、二次医療を守る『総合医』の役割を併せ持つ視点での診療が求められます。地域のニーズと特性を総合的に考えながらバランスを保っていく、そんなフィールドを目指し成長したいと考えています。

保健・医療・介護・福祉の連携による『飯南町版地域包括医療・ケア』を体験して下さい。

●町立奥出雲病院

町立奥出雲病院は中山間地において、入院・外来医療を提供しています。令和2年11月より、院内に「介護医療院」を開設し、要介護者への対応も始まりました。さらに、今後増加する在宅療養ニーズに対応するため、「在宅診療センター」として訪問事業(訪問診療・看護・リハ・栄養指導)を実施し、地域の医院や事業所と連携しながら在宅医療に熱心に取り組んでいます。

また、学生が指導医等に対し「本日の学び」のショートプレゼンテーションなど、コミュニケーション能力向上のための実習などもあります。

さらに、医学生の希望に応じて実習スケジュール変更するなどフレキシブルな対応も可能です。

出雲地区

【日 程】 令和5年8月22日(火)～24日(木)

【募集人数】 2名

【実施機関】 島根県出雲保健所

【実習協力機関】 出雲市立総合医療センター、島根県立こころの医療センター、医療法人 須谷医院、
医療法人つたや会 在宅診療所いずも、社会福祉法人創文会 ハートピア出雲

【実習のセールスポイント】

訪問診療実習では実際に患者宅まで同行し、最前線の地域医療に触れることができます。市立総合医療センターでは、切れ目のない医療、予防医療、地域医療連携の現状などについて学びます。こころの医療センターでは県全域を視野にした精神医療を学ぶことができます。ハートピア出雲では、障がい者の自立した生活に向けた支援の取り組みを知ることができます。幅広い現場を経験することで、地域医療のイメージを培うことができます。

県央地区

●大田地区

【日 程】 令和5年8月22日(火)～24日(木)

【募集人数】 2名

【実施機関】 島根県県央保健所

【実習協力機関】 大田市立病院、大田市国民健康保険 池田診療所、中村ブレイス株式会社

【実習のセールスポイント】

圏域の地域医療を支える中核病院の特徴を学びながら様々な実習(外来・病棟・当直体験・診療所実習等)が行える実習プログラムとなっています。

地域医療に情熱的に取り組む臨床現場の雰囲気を感じ、その想いをぜひ聞いてください。

●邑智地区

【日 程】 令和5年8月22日(火)～24日(木)

【募集人数】 2名

【実施機関】 島根県県央保健所

【実習協力機関】 公立邑智病院、加藤病院、中村ブレイス株式会社

【実習のセールスポイント】

圏域の地域医療を支える中核病院の特徴を学びながら様々な実習(外来・病棟・当直体験・診療所実習等)が行える実習プログラムとなっています。

地域医療に情熱的に取り組む臨床現場の雰囲気を感じ、その想いをぜひ聞いてください。

浜田地区

【日 程】 令和5年8月21日(月)～23日(水)

【募集人数】 3名

【実施機関】 島根県浜田保健所

【実習協力機関】 独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター、島根県済生会江津総合病院、
西部島根医療福祉センター、浜田市国民健康保険診療所(波佐診療所、あさひ診療所)

【実習のセールスポイント】

急性期医療、精神医療、福祉と連携した医療、地域に密着した医療の現場を体験し、現場の医療職との意見交換を行うことにより、浜田圏域における各機関の取り組み、役割、医療連携について理解を深めていただくプログラムです。

益田地区

【日 程】 令和5年8月21日(月)～23日(水)

【募集人数】 3名

【実施機関】 島根県益田保健所

【実習協力機関】 益田赤十字病院、津和野共存病院、松ヶ丘病院、松本医院

【実習のセールスポイント】

益田圏域内の様々な機能の病院における実習を通し、地域医療の役割・課題等について理解を深めてもらえるようなプログラムを準備しています。地域医療の最前線で活躍しておられる医師やスタッフの姿、多職種・多機関連携の様子にぜひ触れてください。救急外来実習、地域の患者さん宅への訪問診療、巡回診療への同行等も予定しています。

隠岐地区

●島後地区

【日 程】 令和5年8月21日(月)～24日(木)

【募集人数】 3名

【実施機関】 島根県隠岐保健所

【実習協力機関】 隠岐広域連合立隠岐病院、隠岐の島町国民健康保険診療所(五箇診療所、都万診療所)、高梨医院、隠岐の島町地域包括支援センター

【実習のセールスポイント】

地域医療の中核となっている隠岐病院や町立診療所、開業医の現場を実際に体験頂き、離島における医療の現状、また総合診療の在り方を感じてみて下さい。更に、限られた人数で医療を支える仕組みについても学んでみませんか。保健所や地域包括支援センターの役割を知って頂くことにより、行政と住民との関わり方、及び行政と医療機関の連携についても理解を深めていただければと思います。

隠岐地域での医療実習へのご参加をお待ちしております。

●島前地区

【日 程】 令和5年8月21日(月)～24日(木)

【募集人数】 2名

【実施機関】 島根県隠岐保健所

【実習協力機関】 隠岐広域連合立隠岐島前病院、西ノ島町地域包括支援センター

【実習のセールスポイント】

地域医療の中核となっている隠岐島前病院の現場を実際に体験頂き、離島の医療の現状、また総合診療の在り方について感じてみてください。また、限られた人数で医療を支える仕組みについても学んでみませんか。保健所や地域包括支援センターの役割を知って頂くことにより、行政と住民との関わり方、及び行政と医療機関の連携についても理解を深めて頂ければと思います。

隠岐地域での医療実習へのご参加をお待ちしております。

お問い合わせ・お申込み先

島根大学医学部 学務課 教育改革・教務担当

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL : (0853)20-2085 FAX : (0853)20-2078

URL : <https://www.med.shimane-u.ac.jp/zaigakusei/sscmt/index.html>

島根大学医学部ホームページ(上記URL)に

募集要項・参加申込方法等を掲載していますので、ご参照ください。

松江地区

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 松江市・島根県共同設置松江保健所
- 2 実施年月日 令和5年8月21日(月)・22日(火)・24日(木)
- 3 実習協力機関 松江市国民健康保険来待診療所、安来市立病院
- 4 宿泊場所 自宅
- 5 参加人数 1名
- 6 実習内容 松江圏域における地域医療について

8月21日(月)		8月22日(火)		8月24日(木)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
9:20	松江保健所集合 オリエンテーション	9:00	来待診療所集合 午前(外来診療)	8:40	松江保健所集合 移動
9:30	保健所長講話			9:30	安来市立病院
10:30	移動				午前(オリエンテーション、 院長講話、外来実習)
11:00	来待診療所 午前(外来診療) 昼食 午後(訪問診療)		昼食 午後(訪問診療)		昼食 午後(訪問診療)
18:00	(初日終了)現地解散	18:00	(2日目終了)現地解散	16:15	終了 移動
				16:30	松江保健所(実習のまとめ) 実習終了

●今回の実習で得たこと、学んだこと

島根県では高齢化が進み、多くの疾患を併せ持つ患者が増えているため、専門科だけでなく幅広い疾患を診ることが必要だと実感しました。診療所では多くのケアマネージャーと連携を取るのが大変で、その地域の住民を包括的にケアできるより地域に密着したシステムがあるとよいと感じました。転倒や認知症から寝たきりになる患者が多く、そういったインシデントを予防するため来待診療所では体操教室を行っており、予防医学の参考になりました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

医師を志すうえでどうしても医学知識ばかりに目が行きがちですが、患者の生活にも目を向けて、より包括的な治療を行うという視野を持って学びたいです。また、多くの疾患を併せ持つ患者にも対応できるように総合的な医学知識を身に着けたいです。看護師やケアマネージャーなど多くの職種の人と連携して医療を行うため、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力も身に着けてよい関係を築ける人間になりたいです。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 授業で習うようなことを実際に見学できたこと。
- 島根の医療について深く考えられたこと。
- 普段の学びをより臨症的なものに近づけていこうという動機付けができたこと。

●お世話になった方へのメッセージ

松江保健所、来待診療所、安来市立病院の皆様、この度は医療実習生として受け入れてくださりありがとうございました。勉強になることばかりでとても貴重な経験をさせていただきました。将来、島根県の医療者として少しでも恩返しできるように精一杯がんばってまいります。大変お世話になりました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

雲南地区 (雲南市立病院)

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県雲南保健所
- 2 実施年月日 令和5年8月21日(月)～23日(水)
- 3 実習協力機関 雲南市立病院
- 4 宿泊場所 雲南市立病院医師住宅
- 5 参加人数 3名
- 6 実習内容 雲南地域における地域医療について

8月21日(月)		8月22日(火)		8月23日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
10:00	【雲南保健所】 オリエンテーション 管内の概要説明	7:30	【雲南市立病院】 地域ケア科カンファレンス 病棟回診	8:00	【雲南市立病院】 地域ケア科カンファレンス 病棟回診
11:10	質疑、感想	9:00	整形外科・内科・耳鼻科外来 見学	9:00	外科・内科・耳鼻科外来見学
11:15	昼食、休憩	11:30	昼食	10:00	訪問診療同行
12:15	【病院へ移動】	12:00	オペ見学	12:00	昼食
13:00	【雲南市立病院】 オリエンテーション 病棟実習 院内各部署現場紹介	15:00	地域ケア科専攻医意見交換 振り返り	13:00	オペ見学
16:00	終了	15:30	終了	15:30	振り返り
				16:00	終了

●今回の実習で得たこと、学んだこと

実習に参加させていただき、実際に医療の現場を見ることで、地域医療のメリットやデメリットを見つけることができました。私が実習を行わせていただいた、雲南市立病院では、地域の人と共に協力して運営されており、地域の人がとても協力的でボランティアをしてくださる方々など他の病院にはなかなかない地域の人々とともに成長していった病院で、地域医療を担う病院としてとても理想的な病院だと思いました。また、僻地の医療ではよく見られる、アクセスの問題や、医療従事者の不足など解決すべき課題も見え、より良い地域医療を目指すため私たちができることを力の限り尽くしたいと強く思いました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

まず、実際に医療の現場を見学させていただいたことで、私も医師になるのだという実感がわき、これからの勉強へのモチベーションがとても上がりました。この機会を無駄にすることなく、勉強にますます励みたいと思いました。

また、今回地域医療実習を通して知ることができた、地域医療が抱える課題を意見交換会で出た先生方や他の生徒の方々と考えた解決案を私たちが実際に行えるよう努力していこうと思いました。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 医師になるという実感が湧き、もっと勉強を頑張ろうと思えた。
- 地域医療が抱える課題について真剣に考えることができた。
- 医師になった際自分が地域医療の分野でどのように活躍できるか考えることができた。

●お世話になった方へのメッセージ

この度は、本当にお世話になりました。

雲南市立病院では他の病院にはあまりない地域の方々のご協力がとても厚く、地域医療の良さや、暖かさを知ることができました。これから島根の地域医療に従事する医師として今回の経験を忘れずに島根の医療をより良い存在にできるよう勉強に励もうと思いました。

まだ医学生としても未熟な私を実習に参加させていただき貴重な体験をたくさんさせていただいて本当にありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

外来見学では実際の先生方の診察を見ることができ、自分なりに医師になった際に診察で心がけたいポイントを考えることにつながった。患者さんが分かりやすい、安心できる医療を提供することが大切だと感じた。また訪問診療の見学では自身が以前から抱いていた地域医療に対する考え方がかなり変わった。患者さんごとに様々な事情があり頼っている、その部分に1年生という右も左もわからない私なりにもどかしさや今後考えていきたいテーマが見つかったように感じる。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

外来見学で学んだ患者さんに寄り添う姿勢は実際に現場で見て肌で感じることができたので今後の医師として身につけるべき基本的な姿勢として常に念頭に置いておきたい。そして訪問診療で感じた自身の考え方と現実とのギャップは、自身の地域医療に対して持ち続けるテーマの一つとして今後も考え続けていきたい。それが実現の難しい理想論だとしてもそこに近づけていくことが医師の使命であり、島根県の地域医療の担い手を目指す自身の役目だと考えた。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 地域医療に対する考え方がアップグレードされた。
- 診察の現場を実際に見て医師として心がけるべきことについて改めて考えた。
- 高齢者に対する医療について自分なりに学びきっかけになった。

●お世話になった方へのメッセージ

病院事務の方や先生方には実習の要望をほぼ100%かなえていただいたので、どれもありがたかったです。また知識のない1年生であるにもかかわらず現場を積極的に見せていただいたり、議論に混ぜていただいたりと実りある実習となりました。ありがとうございました。

●今回の実習で得たこと、学んだこと

外来患者さんが非常に多かったのですが、患者さんになるべく待たせないような対応をしたり、看護師さんに的確な指示を出したりしてスムーズに診療を進めていました。病気の説明は、わかりやすいように写真を見せながら説明しており、患者さんもよくわかったと言っておられました。手術見学においては腹腔鏡下胆のう摘出術を2例見させて頂きましたが、同じ手術でも患者さんの状態にあわせてやり方を変えていたのが印象的でした。訪問診療では、患者さんの病気だけでなく生活環境なども考えて治療方針を決定しており、病気を治すだけでなく、患者さんを安心させることが大事だと思いました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

外来を見させて頂いた際に、医師がどのように患者さんとコミュニケーションを取っているかを注目して見ていました。病気の説明がとてもわかりやすかったので参考にしていきたいと思います。手術では、術者と助手と看護師さんがコミュニケーションをとりながら患者さんにあわせた手術を行っていたので、僕も将来チーム医療を行っていききたいと思います。訪問診療では、患者さんが安心して過ごせるにはどうしたらよいかを第一に考えながら診療していきたいと思います。今後訪問診療がさらに増えてくるとと思いますので、今回経験したことを将来医師になったときに活かしたいです。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 患者とのコミュニケーション能力。
- 連携する力。
- 目のつけ方。

●お世話になった方へのメッセージ

手術や外来など、普段見られないものを見せて頂き、ありがとうございました。

雲南地区 (飯南病院)

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県雲南保健所
- 2 実施年月日 令和5年8月21日(月)～23日(水)
- 3 実習協力機関 飯南町立飯南病院
- 4 宿泊場所 琴引ビレッジ山荘
- 5 参加人数 1名
- 6 実習内容 飯南町における総合的な医療の実践について

8月21日(月)		8月22日(火)		8月23日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
10:00	【雲南保健所】 ・オリエンテーション ・管内の概要説明 ・保健所の危機管理	8:00	【飯南病院】 ・朝礼カンファレンス ・外来業務(内科)	8:00	【飯南病院】 ・朝礼カンファレンス
11:10	・質疑応答			9:00	・外来業務(外科処置)
11:15	・昼食、休憩				
12:15	【病院へ移動】	12:00	【飯南病院】 ・昼食(病院食)	12:00	【飯南病院】 ・昼食(病院食)
13:00	【来島診療所】 ・外来業務(内科)	13:00	【在宅】 ・訪問診療	13:00	【飯南病院】 ・検査(大腸カメラ)
	【飯南病院】 ・飯南町の医療の概況 ・地域ケア会議		【飯南病院】 ・外来、救急業務	15:00	【実習まとめ】
17:30	【宿泊先】	17:00	【宿泊先】	16:00	(終了)

●今回の実習で得たこと、学んだこと

今回実習に参加させていただき、多くのことを学んだ。

総合診療に対して、以前よりイメージが持てるようになったし、その重要性を感じた。島根県は高齢化率が高く、いわゆるへき地とされる山間部や隠岐諸島では、高齢化率が40%を超えている。今回の実習でも患者のほとんどが高齢者で、様々な診療科にまたがる複数の疾患を持っておられた。また、高齢者の中には自力で来院することが困難な人も多く、疾患ごとに異なる診療科を受診するのは患者の負担も大きいと考える。このような状況では、1つの器官系を専門にするというよりは、複数の領域を診れる医者が必要だと感じた。飯南病院では、1度の診察で複数の症状を診ておられたが、その地域のニーズに合っていると思ったし、例えば、一般的には外科的な見方だと経過観察になるケースも内科的に見ると別のアプローチができるなど、専門領域別ではなく総合的に診れるからこそできることが多くあるということも学んだ。

また、患者中心の医療の大切さを感じた。医療者側が一方向的に決めるのではなく、相談や説明をしっかりと行っただけで最終的に患者自身が決めておられる場面を多く見たとし、治療中の患者が血圧測定や薬の管理を自ら行ったりわからないことは質問したりされる場面も見た。説明や相談を丁寧に行い、患者自身が決めることは、患者の健康に対する意識を高めることにもつながると思った。患者にとってよりわかりやすい説明をするために先生が気を付けておられることも知ることができ、勉強になった。今は専門知識がほぼ無いので、今の自分が専門用語に出会ったときの感覚も大事にしたいと思った。

医療・行政・福祉が連携し、患者本人に加えて家族も、地域全体でケアしていく大切さも学んだ。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

まずは授業や演習、実習で、今回の実習で学んだことと結びつけながら、医学や医療をしっかりと学びたい。臓器別、分野別で学ぶこともあると思うが、学んだことを自分なりに関連づけながら体系化していくことを意識したい。

また、現在受けている家庭医療セミナーに今後も参加したり、県内外含め他の市町村で行われている地域医療についても調べて比較したりして、総合診療や地域医療について視野を広げ、考えていきたい。患者の年齢も症状も置かれた状況も様々だったことから、ボランティアやバイト等課外活動にも積極的に取り組み、コミュニケーション力を高めるとともに、多様な価値観に触れて視野を広げたい。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

○飯南町や島根県における地域住民のニーズを考える機会となり、地域の住民と話したり特徴をとらえたりしてその地域を知ることが大切だと改めて思った。そして、総合診療の良さと必要性を強く感じるようになった。

○実際に現場を見させていただき、多くのことを学び、もっと知りたいと思ったことやわからないことも沢山あった。今後の学びに対する意欲が強くなったし、1つ1つの学びが臨床につながるのだという意識が生まれた。

○人々を包括的に支えていく仕組みについて考えさせられ、その重要性を感じた。地域の方や他機関と密に連携していくことが必要だという思いがとて大きくなった。

●お世話になった方へのメッセージ

この度は夏季地域医療実習に参加させていただきありがとうございました。飯南地区で行われている医療を見て、総合診療がこれまでの想像を上回るものでしたし、地域医療における重要性を感じました。医療・行政・福祉が密に連携し、地域で包括的なケアが行われているのがとても印象的でした。研修では、診察や検査、カンファレンス等様々なところを見させていただいたり、知識から臨床での工夫まで色々なことを教えてくださったり、聴診や触診、ギブスカット等を体験させていただいたり、たくさん貴重な経験をさせていただき嬉しかったです。実習での学びを活かして今後も学んでいきたいと思っております。3日間楽しかったです、本当にありがとうございました。

雲南地区 (町立奥出雲病院)

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県雲南保健所
- 2 実施年月日 令和5年8月21日(月)～23日(水)
- 3 実習協力機関 町立奥出雲病院
- 4 宿泊場所 自宅
- 5 参加人数 2名
- 6 実習内容 以下実習結果のとおり

8月21日(月)		8月22日(火)		8月23日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
		8:00	【町立奥出雲病院】 病棟ラウンド	8:00	【町立奥出雲病院】 病棟ラウンド
10:00	【雲南保健所】 オリエンテーション 管内の概要説明	10:00	医療介護連携教育 (奥出雲介護老人施設 現地 視察)	9:00	一般外来
11:10	質疑応答 昼食、休憩				
12:15	【病院へ移動】	12:00	昼食	12:00	昼食
13:15	【町立奥出雲病院】 オリエンテーション	13:00	奥出雲町・奥出雲病院につ いて講義(指導医)	13:00	訪問リハビリ
14:00	病院見学等				
15:00	地域医療・奥出雲町とは 講義(病院総務課)	14:30	医療介護連携教育 (小規模多機能型居宅介護 事業所 現地視察)	15:00	医局勉強会・振り返り
16:00	終了	16:00	終了	16:00	終了

●今回の実習で得たこと、学んだこと

先生と一緒に回診に行ったとき、様々な病状や環境の患者さんがおられた。先生は一人一人の家庭環境や背景を把握されていることが印象に残っている。患者さんの疾患を治療することはもちろんだが、それだけでなく患者さん一人一人の思いに寄り添うところが見られ患者さんの希望に近く、穏やかに過ごすために、家族の元へ帰るために(あるいは一人でゆっくり過ごすために)どうすればよいかと常に思っているとおっしゃっていた。また、多職種連携が非常に大事だということを目の当たりにしました。奥出雲病院は良くなされているなと思いました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

将来、島根県で働く際には患者さん一人一人に異なる過去や考えや最期をどのように過ごしたいかという希望があり、その思いに寄り添うような医師になろうと思います。そのためには患者さんとのコミュニケーションが大切になってくると思うので患者さんに優しく話しかけようと思います。また、幅広い知識を身に着けるために勉学に励むこと、多職種のことについても良く知っておくことが大切だと思いました。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 先生と話す時は緊張するが、自分から質問できるようになった。
- 将来島根県で働く医師として、島根の地域医療のことについて詳しくなった。
- 疾患について沢山学べた。友達に説明できるようになった。

●お世話になった方へのメッセージ

今回、このような島根県での実習をする機会を作ってくださった鳥根大学の方をはじめ、病院実習が初めてでなにも分からない私たちに様々なことを教えてくださったり、優しく丁寧に接してくださった奥出雲病院の皆さんには感謝しかありません、貴重な経験になりました。本当にありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

今回の実習を通して鳥根県の中山間地域における医療の現状について3日間という短い時間ではあったが学ぶことができたように感じる。今回、自分が得たことや学んだことは3点ある。1点目は地域医療の現場の中で医師に求められている医学的スキルである。特に基幹病院と比較して医療機器が少ないので、エコーの技術やガン、救急、感染症に対する対応能力は非常に求められているように感じた。2点目は地域における病院の在り方である。これまで日本全国各地の全ての病院に多くの診療科があった方が良いという考え方だった。しかし、病院も経営をしているという点を踏まえて、地域のニーズに合った診療科を提供していくことが必要であると感じた。3点目は医師と地域の介護施設の関わり方である。今回の実習では2か所の老人介護施設の見学をさせていただいた。その中で、施設利用者や施設職員の方から医師に日常的に相談に乗ってもらえることから互いの信頼を構築できていることを知ることができた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

今回の実習内の朝のラウンドでは今後役に立ちうる医学的知識について多くのことを教えていただいた。そのことを今後のCBTの勉強や冬から始まるポリクリに活かしていけるように日々復習をしていきたい。また今回の実習を通して、地域医療についての考え方が病院によって異なっているのではないかと感じた。そこで今後の大学内の授業で組みこまれている地域医療学実習では、鳥取県内の病院における地域医療の考え方について学び、自分の中における地域医療について考え、将来に活かしていきたい。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- ラウンドを通して実際の患者さんについて知ること、医学的知識の幅が増えたこと。
- 多職種連携の重要性を理解し、医療従事者だけでなく病院で働くすべての人に敬意を持つことができたこと。
- 漠然とした将来の働き方から自分がどのように働きたいかということを考えることができるようになったこと。

●お世話になった方へのメッセージ

今回の夏季地域医療実習では奥出雲病院のS先生、E先生、Iさんをはじめ多くの方にお世話になりました。これまで漠然と考えていた地域医療というものについて、自分が鳥根県の地域医療でどのようなことが求められているのかを知ることができました。今回学んだことを残りの学生生活や将来の働き方に活かしていきたいと思います。今回の実習では受け入れをして下さり、ありがとうございました。

出雲地区

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県出雲保健所
- 2 実施年月日 令和5年8月22日(火)～24日(木)
- 3 実習協力機関 出雲市立総合医療センター、島根県立こころの医療センター、医療法人 須谷医院、社会福祉法人創文会 ハートピア出雲
- 4 宿泊場所 自宅
- 5 参加人数 1名
- 6 実習内容 出雲圏域における地域医療について学ぶ

8月22日(火)		8月23日(水)		8月24日(木)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
8:30	保健所集合 【保健所実習】 オリエンテーション 管内概況 保健所業務等の説明 (昼食:保健所内)	8:30 9:00	保健所出発 病院実習(1日) 【出雲市立総合医療センター】 健診センター、リハビリテーション技術科、内視鏡検査等の見学 (昼食:病院内)	8:30 9:00 11:30	保健所出発 病院(精神科)実習 【県立こころの医療センター】 精神科医療の状況 院内見学 実習終了 (昼食:就労支援事業所のレストラン「あそび」)
13:00	訪問診療実習 【須谷医院】 訪問診療同行	13:00	地域医療連携の現状等の説明等	13:00	【ハートピア出雲】 施設見学 社会資源の役割、地域支援の実際について 当事者との交流等
16:30	保健所着、記録まとめ	16:00 16:30	実習終了 保健所着、記録まとめ	16:00 16:30	実習終了 保健所着、意見交換
17:15	終了	17:15	終了	17:15	終了

●今回の実習で得たこと、学んだこと

たとえ病院の数が少なくても、病院同士が連携したり、医師や看護師、療法士、ケアマネージャーなどの多職種が連携したりすれば病院不足をカバーできることを学びました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

過疎地域で医師になるためには、医師になるための勉強や病気についての勉強をするだけでなく、地域医療構想についての勉強も必要なので、そこに活かしたいです。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 内視鏡についての知識と技能。
- 地域医療に対する関心。
- コミュニケーション能力。

●お世話になった方へのメッセージ

大変お忙しい中、私たちの実習に協力してくださり大変ありがとうございました。1年生の時点で、医療に対する関心を高めるのにはとてもいい実習でした。専門的な医療や医療連携システムを学ぶことができ、とても貴重な体験でした。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

県央地区 (大田地区)

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県県央保健所
- 2 実施年月日 令和5年8月22日(火)～24日(火)
- 3 実習協力機関 大田市立病院、中村ブレイス株式会社
- 4 宿泊場所 あすてらす
- 5 参加人数 2名
- 6 実習内容 大田地域における地域医療について

8月22日(火)		8月23日(水)		8月24日(木)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
9:00	【県央保健所】 オリエンテーション 所長講話	8:20 9:00	大田市立病院に集合、移動 【池田診療所】 市民へのお話会・診察の見学	8:30	【大田市立病院】 総合診療科外来(1名) 循環器内科外来(1名)
10:30	【中村ブレイス株式会社】 義肢装具製作所見学				
12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	先輩たちとランチミーティング
13:30	【大田市立病院】 オリエンテーション 医局案内	13:30	病棟診療・患者処置等(1名) 救急外来(1名)	13:30	手術室案内・外科手術見学
14:00	【地域医療連携室】 地域医療ケアシステム、 ACP、地域医療連携室の役割等				
15:00	【リハビリテーション科】 リハビリテーション概要・訪問 リハ、在宅、生活期のリハ	15:00	救急外来(1名) 病棟診療・患者処置等(1名)	15:15	実習のまとめ
16:00	【大田市医療政策課】 大田市の医療の現状・求める 医師像・大田市の取り組み 災害時の医療体制			16:00	【県央保健所】 実習報告会
17:00	終了	17:15 21:00	夜間救急外来実習・検食体 験 終了		

●今回の実習で得たこと、学んだこと

今回の実習では、医療は地域の人のためにあるべきだということを学んだ。診療所であれば日常の中の健康を守るために、現状維持を望む人、病院であればもう少し積極的に治療をしていこうとする人のためなど、それぞれの役割はあっても、地域の人が必要としている医療を届けることが大切だと思った。医師不足や診療科の偏りが問題になるのは、必要としている人がいるのに、その医療を提供できないからだということがわかった。ただ、こうした問題を、大田市であれば地域枠推薦や総合医育成センターなど、市の取り組みによって改善されたという事実があることを学べたのは大きかった。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

将来について、自分がやりたいことだけでなく、患者さんが何を望んでいるのかという視点から考えることも必要だと思った。そのために、まずは今住んでいる地域や地元の医療の現状と今後の動向について知る必要があると思った。また、実際に診察するとなったときは、いつもと少し違う、なんとなく元気がない、といった言語化しきれない部分に気づくことが大事だったので、周りをよく見て、人と話して、細かな変化に気づけるようになりたいと思った。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 何も知らない地域でも、一人で実習をする行動力がついた。
- 高齢化が進む地域での医療の体制についての知識が深まった。
- 必要だと思ったことを自分で調べたり、人に質問したりすることで積極的に学ぶ姿勢ができた。

●お世話になった方へのメッセージ

大田市の医療と町全体について様々な観点から学ぶことができました。積極的に体験をさせていただけてとても楽しく、またたくさん話しかけてくださって嬉しかったです。この実習の経験とともにこれからも勉強に励みたいと思います。短い時間でしたが本当にありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

池田診療所の見学を通して、大田市立病院のような二次医療を担う病院が一次医療も提供することで、診療所の減少で無医村無医地区になった住民の方に今までと近い医療を提供することに繋がると学びました。

中村ブレイス株式会社さんの見学を通して、企業が改築をしたり雇用を生み出したりして町全体をより良くする活動を行っているのが印象的でした。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

病院の役割を明確にすることを前提に、一次医療を提供する診療所が減少していることから、二次医療を提供する病院も一次医療を提供できる体制を作っていると知ったので、一次医療、二次医療のどちらも提供できるように、専門的な知識、技術を身につけるだけでなく、幅広く患者さんをみられる医師になりたいと思いました。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

○二次医療を担う病院が一次医療も担うという方法があると知った点。

○総合診療科への理解が深まった点。

●お世話になった方へのメッセージ

お忙しい中実習させて頂きありがとうございました。様々な経験をさせていただき有意義な実習になりました。たくさん話しかけたり、丁寧に説明したりしてくださり嬉しかったです。

またよろしくお願いします。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

県央地区 (邑智地区)

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県県央保健所
- 2 実施年月日 令和5年8月22日(火)～24日(火)
- 3 実習協力機関 公立邑智病院、仁寿会 加藤病院
- 4 宿泊場所 公立邑智病院宿舎、かわもとおとぎ館
- 5 参加人数 2名
- 6 実習内容 大田地域における地域医療について

8月22日(火)		8月23日(水)		8月24日(木)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
9:00	【県央保健所】 オリエンテーション 所長講話	7:15	【公立邑智病院】 朝食	8:00	【仁寿会 加藤病院】 病院・在宅 朝のカンファレンス 医師会議・オリエンテーション
10:30	【中村ブレイス株式会社】 義肢装具製作所見学	8:15	医局全体カンファレンス参加	9:00	訪問診療同行
12:00	昼食	9:15	外来見学(総合診療科、小児科など)	12:00	昼食
14:30	【公立邑智病院】 オリエンテーション 院内見学	12:00	昼食	13:00	訪問診療同行
15:30	説明「地域連携について」	13:00	救急または検査見学 (エコー検査など) 状況によって手術見学	14:30	各部門紹介・まとめ振り返り
16:15	救急または検査見学 (エコー検査など)	16:00	振り返り	15:00	実習終了
17:15	夜間救急外来実習	16:30	実習終了	16:00	【県央保健所】 実習報告会
17:30	夕食	17:00	宿泊(ホテルおとぎ)		
18:30	夜間救急外来実習 宿泊(邑智病院施設)				

●今回の実習で得たこと、学んだこと

島根県の地域医療がどのような方々によって支えられているのかを知ることが出来ました。また、それがどういったシステムやリソースによって構成されているのかを肌感として感じる事ができました。外の世界から見るとどうしても単一的なもの見方に陥ってしまいがちですが、奥が深いものだったと思い知らされました。具体的な話を挙げますと、邑智病院でのクラークさんの代行入力が個人的には(一エンジニアとして)衝撃を受けました。複雑怪奇な電子カルテを保守するより、クラークさんに複雑な電子カルテの扱いを吸収してもらうほうが経済的なのはなるほどと思いました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

患者さん一人一人に対する解像度が、今後大きく上がるような気がしています。具体的に申しますと、大きい病院にいただけでは、目の前の患者さんがどこから来て、どこへ行くのかということに関してかなり表面的なことしか理解できないと思いますが、今回の実習を通してどこから来て、どこへ行くのかということに関して、非常に理解が深まりました。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 様々な職種の皆様に、心からの感謝とリスペクトを抱けるようになった。
- 地域社会のコミュニティの形成と維持の過程に関する想像力が高くなった。
- 医学や公衆衛生に関する学習の意欲が高まった。

●お世話になった方へのメッセージ

中村ブレイスさんでは、職人技とそして地域社会の創成に心を打たれました。邑智病院では、貴重な経験をたくさんさせて頂き、また色々な方が体調を気にかけくださりありがとうございました。加藤病院さんでは、じっくりと細かいお話まで聞かせて頂き大変勉強になりました。そして保健所の方々には、各種調整をして頂きまして、無事充実した研修を送ることが出来ました。皆様誠にありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

今回主に救急医療や在宅診療、当直の概要、義足の作り方などを学びました。また2日目に退院調節会議に参加した際、患者の意思を尊重することは難しいということを知りました。患者は退院した後自宅に帰ることを望んでいましたが、実際のところ患者は自分一人では立つこともできない状況でした。リハビリをすると足を痛めることもあるらしく、必ずしも患者の意思を尊重することはできないのだなと思いました。また、訪問診療では、外来では気づけない変化にも気づけるということを知りました。いつもお部屋を綺麗にしている方が突然汚くなった時、認知症の進行を疑うと伺いました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

今後は教科書で学んだことを丸暗記するのではなくて、実際の臨床像をイメージしながら勉強しようと思いました。患者さんは教科書通りの言葉で症状を言うわけではありませんでした。今後は教科書の内容を自分だったらどう言うふうに言うだろうと考えて学習しようと思います。

また、医学の他に要約する力も必要だと思いました。患者は分かりやすく話してくれるとは限らず、時系列がバラバラだったり、症状が多くある方がいたのでそう感じました。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 聴診器や心電図などの手技が少しできるようになったところ。
- めまいの鑑別がわかったところ。
- 島根の地域医療の問題点を理解したところ。

●お世話になった方へのメッセージ

まず中村ブレイスさん、丁寧に説明してくださってありがとうございました。サポーターを作る会社だと思っていましたが、義足や耳、指や胸なども作っておられると伺い驚きました。また日本のみならず海外の人とも関わりがあることや、地域おこしなども行っておられて素晴らしい会社だと思いました。今回は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

次に公立邑智病院の皆様。施設見学や当直、お産の見学やカンファレンスへの参加など沢山のことを学ばせていただきました。聴診器やエコーなども体験できて素晴らしい実習となりました。本当にありがとうございました。初めての病院実習でしたのでとても緊張していましたが、みなさんに親切にさせていただいて安心して実習を行うことができました。将来働く可能性がありますのでその際はまたよろしくお願いします。

最後に加藤病院の皆様。主に在宅診療を学ばせていただきました。また、他の施設も見学させていただいて、将来のイメージができました。特に一人二人の患者のためにある診療所が所々あり、地域に寄り添った医療をされていることが印象に残りました。ありがとうございました。

また、地域医療実習を企画、運営してくださった方々、ありがとうございました。とても印象深い体験となりました。

浜田地区

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関** 島根県浜田保健所
- 2 実施年月日** 令和5年8月21日(月)～23日(水)
- 3 実習協力機関** 独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター、西部島根医療福祉センター、社会医療法人清和会 西川病院、浜田市国民健康保険診療所(あさひ診療所)
- 4 宿泊場所** ホテルルートイン浜田駅前
- 5 参加人数** 2名
- 6 実習内容** 浜田圏域における地域医療・保健・福祉体制について

8月21日(月)		8月22日(火)		8月23日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
8:30	浜田市国保診療所での実習 あさひ診療所(2名)	8:30	西部島根医療福祉センター、 西川病院での実習 西部島根医療福祉センター (1名) 西川病院(1名)	8:30	浜田医療センターでの実習 浜田医療センター(2名) 浜田保健所長講話 実習まとめ 意見交換会 実習終了

●今回の実習で得たこと、学んだこと

3日間の実習を通して、浜田圏域の基幹病院・診療所・精神科単科病院・保健所が緊密に結びついて地域の医療を支えているさまを実体験として学ぶことができた。また、年代の比較的近い初期研修医の下で外来見学をさせて頂くことで、近い将来の自分の働き方を具体的にイメージできる機会にもなった。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

医療資源が充実している松江・出雲圏域とはまた違った地域における医療のあり方について考察する機会があった際に今回の経験をベースにしていきたい。また、今回見学させて頂いた浜田医療センターに関しても初期研修の志望先として、候補の1つに加えていきたいと思う。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 浜田圏域や島根県西部の医療に関する知識。
- 医療スタッフや患者さんとの適切なコミュニケーション能力。
- 実習生としての態度。

●お世話になった方へのメッセージ

この度の実習では様々な手配やご配慮を頂き本当にお世話になりました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

最初のあさひ診療所では患者さんとのかかわり方を学びました。地域に密着した医療を行っており、患者さんの個人的な事情なども考慮したうえで最終的な判断をしていました。西部島根医療福祉センターでは重い障害を持った患者さんが多いために、医療と福祉がしっかりと連携をして一人一人に対する医療体制がしっかりと確立されているのわかりました。浜田医療センターでは副院長の業務の一部を見させていただき、先生の普段の生活を知るといった目的を達成することが出来ました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

今回の実習では医師の方々の行動の基準、患者さんとのかかわり方、またそれに基づいてどのように行動するのかを実際に見聞きすることで学びました。今後、病院実習など様々な機会と患者さんとかかわることになると思いますが、その際に今回の学びを活かして上手く患者さんと交流し、その中でも合理的な判断が下せるようにしていきたいと思えます。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 先生方の診療の様子を間近で見て、診察の雰囲気などを学習することが出来た。
- 医師としての判断、特に患者さんの要望に応えるだけが正しいとは限らないことを学んだ。
- 地域医療においての患者さんとの距離感、接し方などを学んだ。

●お世話になった方へのメッセージ

今回お世話になりましたあさひ診療所、西部島根医療福祉センター、浜田医療センター、浜田保健所の皆様、この度は大変お世話になりました。初めての実習ということもあって慣れない部分も多々あったと思いますが、大変実りのある実習となりました。ありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

益田地区

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県益田保健所
- 2 実施年月日 令和5年8月21日(月)～23日(水)
- 3 実習協力機関 益田赤十字病院、津和野共存病院、松ヶ丘病院、松本医院
- 4 宿泊場所 益田グリーンホテルモーリス
- 5 参加人数 2名
- 6 実習内容 益田圏域における地域医療について

8月21日(月)		8月22日(火)		8月23日(水)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
	(各自)ホテルチェックイン	8:00	ホテル出発	8:00	ホテル出発
		8:30	○津和野共存病院 外来診療見学等	8:30	○松本医院 診療見学 医師との意見交換等
		12:00	昼食・休憩 病院食体験	12:00	松本医院出発
13:00	○益田保健所集合 保健所長講義	13:00	医師との意見交換 訪問診療見学等	12:15	○松ヶ丘病院 「きよら」にて昼食
14:45	保健所出発			13:00	巡回診療見学等
15:00	○益田赤十字病院 診療見学 夜間救急見学等				
		17:00	実習終了 ホテル泊	15:30	松ヶ丘病院出発
				15:45	○益田保健所 意見交換会
				16:45	実習終了 解散
21:00	実習終了 ホテル泊				

●今回の実習で得たこと、学んだこと

益田圏域には、主に5つの大きい病院があり、病院ごとに急性期、回復期、慢性期のそれぞれの状態にある患者さんを受け入れる役割分担がしっかりしていることが分かった。役割が明確に分かれているため、必然的に病院同士のつながりが強固になり、互いに助け合わなければ益田圏域の医療を回していけないことが分かった。

患者さんの中には心に病を抱えておられる方もいるので、ただ身体的に病気を治すだけではなく、診察の際に、その方がどういう方なのかということを常に考えて、一人ひとりにかかる言葉の口調を変えたり、丁寧に説明を加えたりすることも大事であることを学んだ。

患者さんのことを親身になって考えることはとても大事なことだが、一人の患者さんにのめりこみすぎて、自分の精神状態、生活を疎かにしすぎないことも大切であることを学んだ。誰にだって限界はあるので、この先の医療は自分では提供できないと長年の経験から学んだら、その患者さんは別の医師に任せる勇気と割り切りも必要なのだを学んだ。任せられる医療者が近くにいる、という地域間の連携がいかに重要であるかを改めて学んだ。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

大学一年生の今の私は、考えや感じ方が患者さんと最も近いので、今の初めの気持ちを忘れずにこの先、医師になるまでにかかる多くの時間や長い道のりを楽しみながら勉強し続けたい。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 気になったことは積極的に質問する姿勢をしっかりと示せた点。
- 基本的なマナーである挨拶を気持ちよく笑顔でできた点。
- ただの理想ではなく将来、医師としてどう働きたいかが少し明確に見えてきた点。

●お世話になった方へのメッセージ

今回、最終的に私一人の実習となってしまう、とても緊張した実習でしたが、保健所の方々が毎日サポートしてくださいました。本当にありがとうございました。

実習をさせていただいた病院関係者の方々、一年生ということもあり教えがいかなかったかとは思いますが、お話のなかで質問を投げかけていただいたり、私の率直な質問に答えてくださったりしていただきました。本当にありがとうございました。

最後に、この実習を企画し、ご協力していただきましたすべてのみなさまに、再びコロナが流行したり、悪天候の中でしたが、医学一年生のときに実際の医療現場へ出向いて実習を行うという貴重な体験ができましたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

隠岐地区（島後地区）

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県隠岐保健所
- 2 実施年月日 令和5年8月21日(月)～24日(木)
- 3 実習協力機関 隠岐広域連合立隠岐病院、高梨医院、隠岐の島町地域包括支援センター、
隠岐の島町国民健康保険診療所(五箇診療所、都万診療所)
- 4 宿泊場所 ホテルここ
- 5 参加人数 3名
- 6 実習内容 隠岐島後地区における保健・医療、地域医療体験

8月21日(月)		8月22日(火)		8月23日(水)		8月24日(木)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
		8:00	【隠岐病院】 内視・初診外来・救外をローテーション	8:30	【都万診療所】(1名) 【五箇診療所】(1名) 【高梨医院】(1名)	8:00	【隠岐病院】 内視・初診外来・救外をローテーション
11:25	西郷港着 休憩	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	オリエンテーション 所長講義	13:00	【隠岐病院】 院内施設案内	13:30	【隠岐の島町地域包括支援センター】 都万地区の認知症予防教室に参加	13:00	振り返り、意見交換会
16:00	宿泊先案内 解散	15:30	保健所まで送迎 解散	17:15	保健所まで送迎 解散	15:10	西郷港発

●今回の実習で得たこと、学んだこと

今回の実習では、主に外来の様子を見学させていただきました。患者さんとのコミュニケーションの取り方について学ばせていただきました。患者さんと接する際に、雑談など交えながら患者さんが安心できるようにコミュニケーションをとっておられる姿がとても印象的でした。医学知識を沢山学ぶことは勿論大切ですが、患者さんに安心して信頼してもらえるようになるには話し方や態度なども非常に大事なのだと改めて感じました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

今回の実習を通して、自分が将来どのような場所で働くのかイメージをすることが出来るようになりました。普段の勉強では中々イメージできない実際の現場の様子を感じることが出来て、これからの勉強や実習をさらに頑張ろうという気持ちになりました。今回の実習で感じた事をモチベーションに将来を想像しながら頑張りたいです。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 高齢者の方とのコミュニケーションの取り方。
- 自分の考えを発表する能力。
- 将来医療者として働く自覚。

●お世話になった方へのメッセージ

隠岐保健所をはじめ、隠岐病院、高梨医院、そしてデイケア施設など本当にたくさんの施設の方々に大変お世話になりました。優しい方々ばかりで嬉しかったです。とても有意義な実習となりました。将来、成長してまた隠岐に戻ってこられるように、残りの学生生活頑張りたいと思います。今回の研修に関わって下さった皆様、本当にありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

高齢者の認知症予防教室に参加させていただくことで、福祉の場での取り組みを知ることができました。認知機能の低下を完全に防ぐことはできませんが、日常生活の場で関わる人が多くいることで少しでも認知機能低下を遅らせてQOLが高い状態が維持できればよいと思いました。

救急見学をさせていただいたとき、痛みがかなり強い方で躊躇してしまって、自分から積極的に診察することができませんでした。これからは必要なことは躊躇なくできるように訓練していきたいと思いました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

患者さんが診察室では話されない、ご家族や近所の方々とのつながりや職業などの背景情報についても多く知っていることで、診察の質も変わってくると思いました。ですから、高次医療機関だけではなく一次医療機関で実習や勤務をする期間は重要だと思います。今後の学生生活の間で、また医師となってからも積極的に僻地に赴きたいと考えています。

今までの病院実習でも経験したことのある疾患を再びみても、よく覚えていなかったり診察を躊躇してしまったりすることが多かったので、謙虚にもっと経験を積まなければいけないと思いました。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 隠岐地域の医療・福祉の現状と課題について知ることができたこと。
- 医学知識を一度覚えてもすぐに忘れていたことを再認識できたこと。
- 高齢の方とお話をするとき、昔の思い出を話してもらうという新たな会話の糸口を知れたこと。

●お世話になった方へのメッセージ

短い期間でしたが、離島の医療に初めて触れ、本土との違いや隠岐独自の特徴や課題を知ることができ、とても有意義だったと思います。再来年には島根県の地域の皆様に貢献できる医師になりたいと改めて思いました。準備を含めて、お忙しい中お時間を割いていただきましてありがとうございました。

隠岐地区 (島前地区)

【令和5年度夏季地域医療実習実績報告】

- 1 実施機関 島根県隠岐保健所
- 2 実施年月日 令和5年8月21日(月)～24日(木)
- 3 実習協力機関 隠岐広域連合立隠岐島前病院、西ノ島町地域包括支援センター
- 4 宿泊場所 リゾ隠岐ロザージュ
- 5 参加人数 2名
- 6 実習内容 隠岐島前地区における保健・医療、地域医療体験

8月21日(月)		8月22日(火)		8月23日(水)		8月24日(木)	
(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)	(時間)	(内容)
		8:00	【隠岐島前病院】 外科(1名) 1診(1名)	8:00	【隠岐島前病院】 1診(1名) 2診(1名)	8:00	【隠岐島前病院】 2診(1名) 外科(1名)
12:05	別府港着 (昼食・休憩)	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	オリエンテーション 所長講義	13:30	【西ノ島町地域包括 支援センター】 まめな体操、オリエ ンテーション、ケー ス検討会	13:00	【隠岐島前病院】 エコー実習、救急	13:00	振り返り、意見交換会
16:00	宿泊施設へ送迎	17:00	保健所へ送迎後 宿泊施設へ	17:00	保健所へ送迎後 宿泊施設へ	15:45	別府港発

●今回の実習で得たこと、学んだこと

隠岐島前地区は高齢化率が50%に迫る高さであり、何らかの慢性的な健康問題を抱える高齢者の方が多い。隠岐島前病院は、そういった方々を継続してフォローし多職種でケアしていくといったことがメインで行われていた。隠岐のような地域では、住民の方が気軽に健康の悩みを相談でき適切な医療を提供してもらえる病院が求められており、普段実習をしている大学病院のような高度な医療を提供する病院とは全く性質が異なることを実感できた。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

へき地で勤務するには、胃カメラ、大腸カメラ、心エコー、腹部エコー、簡単な外科的処置といった手技が身につけていなければならないことを知ったので、今後の実習や研修医になった際により深く学ぶよう意識したい。特にエコーは地域での診療で非常に有用であることを学んだので、エコーに強い医師になれるよう勉強していきたい。また、大きな病院よりも患者さんとより密なコミュニケーションが求められるので、高齢の方や子どもと話すスキル等も今から少しずつ身につけたいと思った。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 将来、地域で医師として働くイメージが少し持てるようになった。
- 今後何を学び身につければよいか分かった。
- 隠岐島前地区の自然に触れ、住民の方々と交流ができ、地域への理解を深めることができた。

●お世話になった方へのメッセージ

隠岐島前病院では、主に外来の見学をさせていただきました。診察が非常に丁寧で温かみがあり、自分が地域で診療にあたる際は島前病院の先生のような診察を目指したいと思いました。隠岐島前地区は初めて来ましたが、病院含め人間味ある温かい雰囲気がとても魅力的でした。保健所の方々には送迎をはじめ4日間大変お世話になりました。皆さまありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

●今回の実習で得たこと、学んだこと

S先生が常日頃おっしゃっている総合診療の面白さや魅力について、実際にS先生の外来を見て、実感できたことが今回の実習の一番の収穫でした。島前病院が力を入れている分野の一つにPOCUS(S先生は「外来チョイあてエコー」と呼んでいます)があり、聴診器で聴診するくらいの手軽さでエコーを当てて診断や治療に活かしている様子を実際に見ることができたことは大変勉強になりました。

●今回の実習で得たことを今後どのように活かすか

実際にエコーを当ててみて、当て方や読影のスキルの必要性を痛感したので、島根大学の高度総診のエコー実習のコースなどを利用し、エコーを使いこなせるようにしたいと思いました(高度総診の申し込みは済ませました)。また、総合診療医として地域医療に携わるときに、自分がどのように携わっていくのかをこれから時間をかけて考えていきたいと思いました。地域医療と地方創生との連携が上手くいっている自治体はほとんどない(と思われる)ので、そういった取り組みに関わっていきたいと現時点では考えています。

●今回の実習を通して、自分が成長したと思う点

- 総合医として何でも診れるようになりたいという医師になるうえでのモチベーションが向上した点。
- エコーを外来診療に使うというイメージを持てたと同時に、エコーを使う難しさも体験できた点。
- これまで訪れたことがない地域の高齢者の方にも問診ができたという自信を持つことができた点。

●お世話になった方へのメッセージ

実習では大変お世話になりました。島前病院が主催する実習では(おそらく)体験できない、行政の側からの地域医療について学ぶ機会があったのはこの実習ならではのことだと思いました。4日間、ありがとうございました。



実習風景

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

令和5年度夏季地域医療実習 (地域医療体験実習Ⅰ)意見交換会

実習後に、参加学生、本学教員、島根県及び実習機関関係者が参加する意見交換会をオンラインで行った。当日は異なる圏域に実習に行った学生4～5名と、島根県及び実習機関関係者1～2名で1グループになり、「実習で一番印象に残った体験」、「島根の地域医療の良いところ・課題」、「島根の地域医療の改善策」の3つのテーマに沿って話し合った。最後に全4グループそれぞれの代表が自身のグループで話し合った内容を発表した。

日 時 令和5年8月25日(金)14:00～16:00(Web開催)

参加者 合計32名
・島根県及び実習機関関係者：8名
・大学関係者：5名
・実習参加学生：19名

フレキシブル実習(地域医療体験実習Ⅱ) 概要

地域医療支援学講座では、島根の地域医療に対する理解を深めてもらう為に、夏季・春季地域医療実習だけでなく、学生が自ら企画立案を行い、考える学修「フレキシブル実習(自主企画型地域医療実習)」の支援をしています。

実習目標

学生自らが企画立案し、島根県内外の地域医療拠点病院・へき地診療所等の活動や地域との連携を実地で体験・学習することにより、島根の地域医療や公衆衛生業務に対する理解を深める。

実施時期

通年(原則として夏休み、冬休み、春休み中)に学生が希望する期間。平日3日間程度。

対象

島根大学医学科生

実習医療機関

島根県内(出雲・松江圏域臨床研修病院は除く)および県外の地域医療に関連する医療実習機関

参加者

延べ34名(令和5年1月～令和5年12月)

実習協力機関：雲南市立病院、公立邑智病院、隠岐広域連立隠岐病院、
隠岐広域連立隠岐島前病院、浜田市国民健康保険あさひ診療所、
浜田市国民健康保険波佐診療所

実習中の課題

- ・地域医療支援学講座の教員と面談の上、学生自らが実習内容・医療機関を決定。
- ・実習前に計画書を作成し、各々の目標を決め、事前学習を行う。
- ・実習中は毎日Day Sheetを記入し、実習で学んだことを書き留める。
- ・実習後に各々が報告書を作成し、意見交換会に参加し、共有する。

旅費

島根大学医学部を起点とした実習病院までの交通費、宿泊費、日当(規定額)を支給。
※出雲市内の医療機関は旅費支給対象外とする。

宿泊場所

病院宿舍、ホテル、当直体験など

●今回の実習で得たこと、学んだこと

アルコール依存症患者への聞き取りによって、その問題点や回復へのステップを学ぶことができた。問題点としては、家族を含めた周りの人への暴言等によって迷惑をかけることや、社会的生活を営む力を失うことなどが挙げられる。回復へのステップとしては自助グループへの参加等が挙げられた。

アルコール依存症治療中の患者、そこから回復した方、その家族等の声に直に触れることで問題点等をしっかりと捉えることができた。有効な解決策に関しても貴重な意見や経験談を聞くことができた。更に、地域として、アルコール依存症にどのように向き合っていけるか、考える機会にもなった。医師の果たす役割については、少子高齢化の進んだ地域の診療所で往診の見学や外来診察の見学、待合室での患者さんへのインタビューを通して、考えるヒントを得ることができた。

また、自助グループに実際に参加されている方のお話を聞いて、自助グループの有効性を知ることができた。将来依存症患者に対面した時、自助グループへの紹介という1つの方策を学ぶことができた。今回グループで実習に参加し、いろんな考えに触れる機会となり、様々な角度から学びを深めることができた。

●今回の実習で得たこと、あるいは課題を今後どのように活かすか

アルコール依存者に対して、医師という立場でなく、学生として話を聞くことができたので、経験談などかなり踏み込んだお話を聞くことができた。その体験の中で感じたことは、別の患者さんが感じるであろう内容も多く含まれていた。例えば、アルコール依存症の方に対して、単に「アルコールの摂取を減らしましょう」と提案するのは効果が薄いことを学んだ。依存症の一つの特徴として、その摂取を自分で止めるなどのコントロールがなかなかできない。そこで、医師にできることは、まずは相手の立場に立つことである。依存症の方で病院に自分から来る方はとても少なく、たいていは何か大きな問題を起こしてしまい病院に連れて来られるケースが多いように感じたので、まずは相手の現在の感情に共感することが大切だと思った。医師も人間なので、その時その時で感情はあるが、なるべく自分の感情はコントロールして相手の立場に立って、寄り添った治療方針を提示することが大切だと感じた。つまり、病気を治療することだけでなく、治療のプロセスも重視するというのを今回の実習で学んだので、自分が医師になったときに活かしたいと思う。

●お世話になった方へのメッセージ

波佐診療所のS先生には今回の実習では実習内容の調節などとても協力してもらい、感謝の念が尽きません。ありがとうございました。波佐診療所の看護師、事務、コミュニティセンターの方にもとてもお世話になりました。ありがとうございました。波佐地域の方にも自分達のインタビューに快く協力いただき、本当に感謝しています。皆さんの協力なしでは今回の実習は成り立ちませんでした。重ねて感謝を申し上げたいと思います。

●今回の実習で得たこと、学んだこと

精神科医療は看護師・ソーシャルワーカー・心理士・介護士・ケアマネジャー・他の一般科のメディカルスタッフといった多くの職種の連携で成り立つことを改めて実感した。また、生活の基盤を整えること、精神保健福祉法との関わりなど、精神科医療の実践的な話、場面を多く伺うことができ勉強になった。

よく精神科医は本人の意思に逆らって自由を拘束できる権力を持つ数少ない職種として語られることがあるが、患者本人がどう考えているか、その意思について特に配慮、理解をしようとする精神科メディカルスタッフの姿勢を目の当たりにしたことは本実習において特に印象に残った出来事だった。

隠岐の医療圏においては高い高齢化率から認知症、またアルコール依存症への治療ニーズが高いことを理解した。特にアルコール依存症では内科的症状が出るまでは相当な年月を要すること、アルコールは本人の見当識、論理的思考力を損なうことがないことから、本人の自覚が乏しく、末期的状態にならないと医療機関につながることは稀であり、精神科にかかるころには困難事例となってしまうことが多いことを学んだ。また、アルコール依存症を家族に持つ方に与える心理社会的影響の大きさについても理解した。

精神医学を最も楽しい診療科であるとおっしゃり、隠岐での暮らしを楽しんでおられるO先生に直接、様々な質問にお答えいただいた。大変刺激を受けると共に隠岐病院で勤務することに少し心が動かされた。また、ソーシャルワーカーのKさんの仕事に対する熱い姿勢についても刺激を受けた。

ケアマネジャーや障害者支援施設、交通手段の不足といった社会資源の不足が患者さんの長期入院につながりそうな例をみせていただいた。そうした限られた選択肢の中で患者さんの意思、QOLを尊重し、力を尽くすことは大変であると同時にやりがいもあることなのだろうと感じた。

自閉スペクトラム症や知的障害の発覚が高齢になるまでされなかった例をみせていただいた。適切な時期に適切な医療機関にかかることの重要性と難しさを感じた。そういった事例を減らすためのアプローチについてはどうしたらいいか学んでみたいと思った。

●今回の実習で得たこと、あるいは課題を今後どのように活かすか

はじめて精神科を中心とした実習をさせていただいた。精神科病棟に入った経験は人生で初めてで大変刺激を受けた。今回の実習の経験が今後、精神医学関連の勉強をする際の理解度や解像度の向上につながると感じた。

また、所属する地域医療研究会内部で勉強会や交流会を開始して、もっと実習や地域医療について学びを深める機会を作ろうというモチベーションも高まった。

精神医学について、不定期に参加している研究室での活動やデイケアでの実習をより頑張りたいと思った。

●お世話になった方へのメッセージ

大変お世話になりました。今回の実習で得た学びを生かし、日々の勉強や地域医療研究会での活動へと活かしていきたいと思います。そして上級生になり、隠岐病院へ実習に伺った際には、その成果を発揮できるよう頑張りたいです。短い間でしたが、ありがとうございました。

フレキシブル実習(地域医療体験実習Ⅱ) 意見交換会

実習目標に照らし、学び・今後の課題をまとめプレゼンテーションを行った。発表毎に質問や意見交換を行い、教授から一人ひとりにフィードバックが行われた。

日

時

令和5年5月30日(火)18:00~19:30

令和5年11月7日(火)18:00~19:30



意見交換会の様子

※ホームページ掲載にあたり、写真削除

おわりに

遅くなりましたが、報告書を仕上げることができました。

当講座の職員が実習を巡回したところ、地域医療の課題や現場の取り組みを真摯に学ぶ学生の姿を見ることができました。また、Webでの報告会では総合的な診断力の必要性や、医療機関と自治体との連携の大切さなどを実感したという声を聞くこともできました。この実習を通して、少しずつ学生の意識が地域に向いていることを非常に嬉しく思います。今後の活動も一層力を入れて取り組んでいかなければと改めて思いました。

地域医療の諸問題の解決のため、大学医学部では地域医療に従事する医師の養成に注力することが求められています。超高齢先進県である島根県では一層、医師の確保が重要な課題となっています。地域医療教育は教員の指導だけでは成り立たず、医療従事者、自治体、その地域に住む人々の教えが大きな比重を占めています。今回の実習で学生たちが深い学びを得ることができたのは、ひとえに実習に協力していただいた皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

この実習で地域に魅力を感じた学生たちが、キャリアの中に「地域で働く」を選択肢に入れ、将来地域医療を担う人材となってくれることを期待しています。

島根大学医学部
地域医療支援学講座